

| |
|------|
| 79 |
| 4310 |
| 2 |



四分半程よりよき節間は九寸五分計打違へて
二本宛竹の目へ下へも脇へも入る也かひつる
は木舞竹より少く細く此竹の目は下へ見る
也木舞ハめんと木舞共八通り也上下の面と際
の木舞ハ一本宛也あみは中墨四寸四五分計りて
合也木舞のかき様ハ次へと向ひ合ハ文字くく
かく也○裏板の幅二寸五分六七分も少く大小有
るよき目の間三分宛透く板目の片木板也
○めんとよきハ厚サ三分程也屋根裏の垂木外軒の
長サめんとよき板の外の内より五寸切る也

廣木舞こまはから竹を用太サ小ロこク七分半節の間九寸計青竹吉垂木端こま八分入て打也但是、茅葺の四畳半也。勝手の方洞庫の上は押し通して一間半の鴨居あり、枚折こまを見附九分こま高廿八軒のけしの上端と鴨居の上端を合す、則檣形の鴨居は勝手の方は用但鴨居勝手の方にては洞庫の頬立柱迄見ると、搦形は右鴨居の下端より土九分計附け下る幅二寸七分、柱の内法也此頬立柱は障子摺の方には頬立柱を見せる幅二寸餘、こまの方には角を丸の土附く程さくこま也

同立附の柱二分さくこまは障子寄せ也。搦形のなこまひたいこまを塗して、**窓は成様は障子の柱は附柴**横十五本、堅こまはこま共四本、土留は鴨居の下端より七寸八分塗して残す也。此障子こま共は横十五堅こまはこま共四本、厚廿六分半糊の附方四分こまは四本、半こまは一間半通こまたる附鴨居より下に見附一寸七分の柱立る也。是は洞庫の取附の柱也。搦形立附の柱より一間目立る、附鴨居より上げかいて取る也。勝手の方こまは天井迄通る洞庫の内より此柱の幅二寸八分木、京丸太を作して見附

の方を所々丸くを少く見せる也木ハ板也檜丸太
も違ふなり。○洞庫ハ廣サ二尺五寸柱ハ存法也奥ハ
深サ一尺四寸八分但前の地闕の先ノ角より向ノ四分一
の柱迄畳の面の寸也。○洞庫類立見附六分半奥ハ此
中二寸也此類立勝手よりハ通リ鴨居迄立登り檼形
の障子を引後の柱に用る也。○洞庫乃高サ一尺九寸
闕乃上端より鴨居の下端迄也鴨居の厚サ八分下端
の中二寸四分也洞庫乃柱一分入る仕合也。○同天井の
板を鴨居の上端へ持せ廻りの臺輪鴨居ハ一面也
○同角の柱は勝手の方へは見へず箱指柱ハ

臺輪も存より附るなり柱は四分半四方、臺輪四分
半、短く地ふくも同く出端也。○四分一の柱ハ臺輪
の地ふくより糸面程入きて仕合也。○地ふくの幅
一寸より板をばあくる存外より地ふくは
見ると地ふくの高サ六分是を地闕の上端より
一分下げ仕合闕より上ハ五分上る也三方の板
を堅く上りの木口ハ天井板を持せ包む也
○洞庫の両脇の柱ハ板寄を洞庫を取附る、
上端鴨居の上、強き土持を鴨居、重し板此土持ハ
けかぬを打て取附る也此土持座敷の方ハ見せ

す勝子の方に見る也。○同舟の棚高サ地ふくの上端より棚の上端迄一尺二寸一分也。板の中九寸厚サ三分半強。棚持メセの棧厚サ三分強。下への中四分半板の中より糸面程棧を短くする也。○此障子堅くちこ共四ツ横打子共五ツ也。○壁裏の潜り横柱の存法二尺七分半高サ二尺二寸六分半敷居の上端より鴨居の下端まで也。○潜り戸框見附六分半厚サ八分上中下の棧も見附六分半厚サ板の厚サ程除けり同。又塵程取合也。上の棧鴨居の下端より一寸八分半下げて是を中墨より中下同。見附也。

目

板の幅七分半厚一分二少。強くする也。板三枚。こして中の板は分を廣くする。又二枚を同。廣さこしてはき板を三寸二分とする。有是は京潜り也。框際板の仕合かさねして狭間の中一寸八分厚六分半同。鴨居の幅厚右と同。○建附の柱戸の框程より込。夫より外に見附八分の柱寄をお附る。廣サハ戸框の厚サ程。柱目を見附。こして狭間のほりの長サ柱寄より五分半出。こして鴨居の端は三分半長く出す也。○柱寄鴨居より上へ六分を出す。○潜閼の上端は見附二寸二分半。夫より

外之戸を引也。鴨居の幅二寸二分厚八分建附
の柱寄の木の角より四分半出しく仕合す。頬立は
本一寸八分の丸太松の皮身を鬮の外の角を合せ仕
合す。此頬立鴨居より上げ外よりは見へぬ也。片ふり
くくは軒の桁マテ屈く也。木の節間いかにも
遠きが吉。鴨居も頬立の存して留る也。頬立丸戸
摺の方は面附多也。三方は面を不附割出。直く
するもよし。潜りの跡の留り柱は栗の皮身を太サ木口
にて一寸八分節有が吉少く曲りたる所、鋸を所
々削りて立べし。軒の桁迄外計り見せ片ふり

て打附、桁の下より七八分小口を餘して切合す
但裡板、支へぬ程くく吉柱の立所、潜りを明くそ
頬立を三分半程外かき見る様、留る柱を立て吉
此脇の間柱は竹也。潜りの柱と跡の柱の振合、立此上の
取附様、軒の桁の中墨迄延して打附る也。潜跡の
柱もほり廻也。狭鬮より下は、間のつり、板桁を
見附七分作りて掘込立べし。但潜りを建てかき
框の跡面と一面、立る也。此先を則ち鬮の狭ものみ
用也。潜引手の太サ見附五分、少く強く板見附
く厚四分也。狭鴨居の跡の出端、留り柱の面四分

出る也。波鬪鴨居より鉦目を下五所上六所い
かにも亂れあり。○突上の明き所一間半の真中の垂
木の用幅一尺六寸三分但垂木兩脇のわいつるを殘す也
わいつるの面より三分出して切明す也板の切口なり
木舞の櫻板の切口も一面より少く木舞引込也極る
所は一尺五寸七分有べし長サ一尺八寸二分下のめん
そ木舞のつらより三分置て切也上の木舞の面よ
りけ五分板を見る也。○同棟とゆの仕様の事堅の
外と申の幅二寸五分窓ふたをもつ中あせ幅七分
舟めぐり樋の中五分舟のあせ三分中あせの丈

高くする也。窓蓋の框ハ舟の面を合す也但舟のわ
り樋は障子の先端より同一面の中あせより下て
仕合す也裡板の上端より中あせの上端迄二寸五分
也同一寸七分下わり樋の上端也。○上の横むなとゆ
幅三寸又四寸も吉中あせ七分通り樋五分、
障子引込方八分障子の上よりむな樋の上端一寸
七分はわりは裡板に附て厚一寸計樋の下端に別
の板を打附て障子を持せて吉障子の分六分
合裡板の上端より樋の上端迄二寸五分樋の厚サ
也是を取合す横樋の返り樋は舟中あせと一

面也。下の横も厚相同し。但し内を一分程下げて障子寄をすろ也。裡板の切口より兩股一寸二分引込てたて通を仕合上下は八分宛引込て仕合す也。○突上雨戸の棧は内面と兩脇下此三分の通の内面合上げ通し通を内へして中あせこひどを木也。框の太廿七分四方中せんは六分中棧と中の竹木舞と通し大方仕合障子も木舞の通り横の骨を合す也。○茅の下の突上兩股杉板にて差廻し志ない板あり上の横通し雨覆あり雨戸仕合せ廻る様にする也。板の中は通の中程は

て横棧あり。○茅葺の事。菰天井より上のからくみけ軒の桁少延して置也。雨ひらなから天井留りの通りに片蓋の柱を立て留りを打附て其留りの通りの上と妻うつぱりをすろ也。則茅の壱木掛之用也。又夫から桁行に志き桁をして棟の塚柱立る也。妻のつか柱は庇の壱木掛の通り一尺程へて立る也。夫を妻の化粧柱と用る。京丸太としてする妻は二間也。棟木も京丸太也。竹木舞の長サより棟木をはたして一寸計短くすろ。つか柱の太廿本口として三寸棟木は少細く

すも也 勾配にかぎれ手より少くふかしくする也
但九寸こして合べきかのまゆ包に長廿九尺五寸庇の上
と留に壁に附ておちもつみと云妻うつばりの
上端よりまゆ包みの下端迄一尺三寸まゆ包に三
寸四分計也。四尺はまゆ包みの上端より棟木の
下端迄此分妻の小壁の事但桁行の木の上端より棟
の木の下端迄五尺三寸計也妻より前へ出るまゆ包の木
長廿一尺六寸五分但まゆ包の木の化粧木舞あゆみは中
すみ五寸計也。ひらの軒の長廿潜りの方よりは二尺
六寸垂木の長廿也桁中墨也。前の庇高廿地ヨリかや

葺の桁の上端迄七尺六寸七分同下の屋根裡の桁の上端
迄地より七尺二寸也但此上も垂木こまいの上もかやを持
桁を敷て右の寸法也ひらの高廿九尺一寸上より桁の下
端迄但軒の桁三寸計めして庇のかやも桁は二寸
八分よりして又ひらの高廿地より桁の上端迄九尺
五寸も昔垂木ひら勝もの方軒の長廿二尺一寸かや
より右も同。○廣木舞の打所垂木の木より
一寸二分入て一寸九分の廣木舞を打也何れも軒の
廻りの木舞の搔様かいつる屋根裡の如し
○潜りの上葺を持軒の桁は軒の長廿ひらの方

一尺九寸五分出〜て置〜。○玄關垂木長廿
三尺六寸桁中よりひらの押桁のはな延〜たるよす
み垂木をもたせ〜庇の軒桁の一尺九寸五分の端に持
する也是を則角木に用多也玄關〜隣上りの上の庇
を云也○妻の潜りの上は附の垂木桁端より五寸
入て隅ある木と取附也はい附〜角に打垂木所を
云也勝手の方の庇のそばの軒は一本舞〜少〜狭
き也○ひら潜り脇の垂木の打様太き垂木一本留め
おて吉ひらと妻と隅の取合木舞の打様同〜通り
ぬ合も有り合ぬもあり不若潜り立附の柱茅を持

堰^{ヒク}
塞^{フサシ}

軒の桁延〜て下の屋根裡の桁も柱一指也左右同し
○茅も持桁は突上の堅どもは〜留る両方留り
〜舟の屋根裏と茅膏と女間とや〜ぶ板を
立る也勝手の方も同〜とぬ〜ぶ板とは茅を
せく板の事也○桁上たて棟とわれ上〜かやを持
たる木打也但其間は配り合て打也屋根裏の垂
木〜同〜様〜通り〜け打れぬ物也かいつるも同
前○舟の屋根裡の軒押通〜玄關の上其通り
二重軒にする也○やなかに六寸廻りの竹をす
る事也いかにもやぬ〜を〜て但〜

こゝも、茅の事也。軒の厚廿六寸但軒の出端屋根裏の軒より長く出る也。茅裡は葎也。垂木端よりかや尻五寸出る也。額の打所まも包より額の下端より一尺一寸の袴腰の板の中五寸八分長廿棟木股の木舞五ツ間より板の上端を合せて木舞の木口より一寸入る内より打也。袴腰を云、額のよりある板也。額無くばまも包の上幅六寸の腰板を壁に附く壁下地かゝ打附也。四畳半の舟床の舟窓長廿一尺九寸横一尺五寸三分地闊より三尺一寸但塗るの寸法也向ふの四分一附

て切る也柱の方にかいつるとの間も、此障子堅舟子共三本横五寸也。潜眼の大窓闊鴨居の間二尺六寸八分舟窓の上は八分出附上げ鴨居もぬり附る是れ八分也。潜立附の柱より障子寄の竹の舟角迄三寸七分置て八分塗留有るまより窓の幅二尺一寸也下の地闊の上端より窓の闊の下端より二尺一寸闊の厚廿八分鴨居九分長廿五尺六寸五分闊をば柱に取附鴨居ハ切て留りに吳竹を打也立附の竹は闊より、此鴨居の木口に打附る也跡ハ上下木口と打附天井廻り縁の下端より延るは子の切口同か、右の窓の寸の内裏居の一寸土を附

るもよゝゝ 右具の口此障子の組子堅中、一ツ横打子共
と七本也突上の下之有窓ハ國鴨居の内法二尺二寸九分
横二尺一寸也桁の下端より鴨居の上端まで四尺三寸也
上下は國鴨居に塗附る也股は突上の中の中堅木よ
り一寸五分勝手の方より窓の立附の釣竹を釣
也竹と塗留マテ一寸也國鴨居の長サ潜りの立附の柱迄
參る但四尺五寸五分あり 此障子堅障子也横の棧中、一
本打子共三本堅打子共六本障子内へ見へ、外の同様竹
具の口より近くきわどく候はゞ間柱の竹を三四分ほど
潜りの方へ逃し、吉の下地窓間渡、大小共堅は一

尺三分横は一尺、して吉何れの所も同ト 窓の障子大
きなるは組子見附二分八厘厚五分半打子四分、六分也○
同小障子は見附二分半厚五分打子は二分、五分半也
○窓障子の堅中、一本打子共三本横ハ割合へ四寸位に
て連子障子の横中、一本打子共三本堅ハ割合へ四寸
四寸余にする連子の數と障子の數と同ト○替戸
は小は堅五分半、七分棧五分半四方又堅四分半、七分
棧四分半四方大は七分、八分、六分半四方の棧也又中ハ
六分、七分半、六分四方の棧、板は片木板也替戸は
夜障子を取り戸替る名也晝も窓多く明り過

ふり多しと立置の時あり 刀掛潜上ニ一重あり
框七分半ニ五分半 けりぬたは五分半ニ五分釣木
同ト但けりぬた四本上下のはりは一寸七分也長廿
二尺九寸五分幅一尺五寸五分なふり急の長廿鴨居の
下端より九寸二分上げ木舞二間目の中〇潜上を
壁くする時多し何れの屋敷もとも丸太の頬立也
此四畳半は刀掛の棚釣所なき故潜りの上は壁より
軒を延びて潜の上を掛を一重釣たり 余の敷奇
は刀掛釣所外の所有之潜りの上窓の連子有
之ハ常の頬立とする也 〇四畳半風炉先の角の柱を

下より二尺五六寸かいて取り下を丸く塗廻す皮
附の丸太より曲りたる柱の如くしてその口に皮
を附て曲り木より塗廻す事也 〇茅は葉を少
かりて捨てられ計りて葺き吉屋根すねて吉
茅こそ屋根にかるまりを附る也 〇まも包みと云ハ
よきを束ねて葺繩を間八九寸宛に割合て二重又
廻して結也結ひふは先より下になして不見
此段の太廿八九寸一尺廻りも見合恰好能くするなり
又六寸四方の木をこしする事也右は北野大茶會の時
利休此敷奇屋を始て作られ一寸法也いかな

る教書巻圍るる出来申候也と被申す也

三齋公豊前小倉本丸大書院椽側圍の**造作**

床横柱の舟法四尺三寸二分半深廿床框の舟の面より向敷居の前の面迄二尺四寸也但畳の面也。同寄せ閤の面九分高廿一寸六分半也。床縁の上端一寸五分高廿二寸七分床の下地閤の面より五分入るふりも仕合、柱の面より同く。落掛の厚廿一寸八分下端一寸三分也床の上端より落掛の下端迄四尺八寸六分也。床の天井高廿地閤の上端

より臺輪の下端迄七尺三寸八分也。同臺輪の見附一寸六分半四分一は糸面程入る立る也。床の舟の窓地閤の上端より窓の下端迄三尺二寸、先の四分一に附て幅一尺七寸五分長二尺三寸五分、外間柱竹みて口中みあり。○出床みてある故脇窓あり康敷の地閤の上端より窓の下五寸四分小脇四分一より三寸一分支より幅一尺八寸一分長廿二尺一寸一分塗すの寸也。○座敷の菰天井と茶點所の臺目の天井の間と落掛あり。枚丸太の面を附て厚廿九分幅二寸一分とて菰天井に附てあり一方は

曲ミ柱の上にて切首あり 高サ板敷より留りの下端迄五尺九寸五分此留りの上端臺目の内の菰を附てあり 座敷の天井は板敷より菰の下端迄六尺六寸三分あり 大書院の椽の屋根裡高き故菰天井も高き也。此臺目の内勝手の方一枚半の歌書張障子あり一枚の幅三尺一寸但障子明けくの口の廣サあり高サ天井の廻り縁の下端に附て鴨居あり 厚一寸二分、閤の幅二寸五分勝手より一枚障子なれども臺目の方より一枚半と見えり也。曲柱横竹より五寸程下りて曲める木の節天井より一尺程

下りて客附の方と脇の方と二所あり 柱の太サは本口より六寸七分あり 差渡は二寸計也面附けてぬめ敷居は五分載て板敷の上より立上せてあり 柱のほり一寸七分計也横竹ぬめ敷居の上端より竹の下端迄二寸二分、竹の太サ本口より一寸三分あり 細く間半の所故節數四節也。本の節二寸三分にして本の方曲柱は線込の角の柱塗廻りの角と曲柱の本の節と同寸なく三所の節間違ひ申候竹の目本ふりより有客附は本ふりあり 曲柱は澤栗也。ぬめ敷居

幅二寸九分木ハ杉の目通リ也塗廻りの地敷居の上
端より敷居の上端迄一尺五寸三分上げ鴨居通也
○檜敷ハ幅二尺八分高廿四寸の上端より鴨居の下
端迄五尺二寸九分此下より九分の塗留あり立
附の方より附さげり塗留敷居の上端より塗留
迄四尺二寸二分ひこの廣廿四寸五分此鴨居の厚
一寸五分闕の上端二寸八分是ハ半間の所より障子
開き申所也障子四墨半の如く右圍の寸法
は是迄也此以後何れの圍より此割合を以可致
也

敷奇屋作るには先板敷より作る框をきり
根太を引迄も切組板を張規矩をあき高低の
なき様之張立板敷の真中之水を盛つかを立テ
柱は切掛く外内に附了但角は外より見へ様
に細めの柱を立る也○柱は面を附て二寸八分
也且四墨半の壁敷の事也夫より狭き壁
敷は柱も垂木も少々大きが
但壁面より外へ面出たるも悉き也能其儀
を考へ面附る事也墨を打事也ちやくは人
を當て削り立随分内の方面を附たる様

一
二
三
也且四墨半の壁敷の事也夫より狭き壁
敷は柱も垂木も少々大きが
也

本末ぢれ合たる木を求てする事也夫故枝木
多くと雖も數奇の木稀也○皮附の木を作事
太きに皮附候時ハ上皮を少くハね起し針を
打則其皮をかぶせし針をかすに皮も附た
るもよし木太くば引割て取分けカスガイ糸
寄て皮を附てよし充細くば割り出して遣
ふ也曲し木は横に引切くさびよく直く成様す
る角木を遣ふ程く所は柁松を用敷居鴨居ハ
枚也但窓の敷居鴨居の事也○床柱相手の柱此
二本を立てるく両方つはよせし立てし左なくバ

向の四分一とけちかい候四分二面を合せて吉
中にも相手の柱両方より塗扱み申故中墨を
外し上を内へ入て吉し左なく候へば柱の末
細く見ゆる物也床縁仕合る所ハ二三寸も面附
て不若夫より長きは無用、地敷居廻りも少し
面附ても不若○床の落掛の木ハ枚九太のいか
くも直くして節なきを見立て二ツに引割角を
削り角を二分計めん程九寸を残り目通して
ちぢみもなきが吉し○床の落掛の上のそりの木
別々本末同一太サの木吉し上下に面附て然れども

本太き木を上下より面附れば丸に不残角に成
て悪し。○床の天井板の木杉を鏡天井也
○何きも面を太く取るは悪し。糸面より太き
敷き物也。○地敷居何きも柱敷通し。糸面程
柱よりあるがよし。○切とつぎ厚きとけ
いやし。一分計見るがよし。切とつぎと云は
切口の事也。○替り立附の柱の面附鴨居迄の登せ
たるは悪し。鴨居の下三分一か三尺二迄の程
續きて吉此面の附様大秘事也人知らぬ事なん
共爰に記す。○替りの頬立丸太とする時ハ替

りの上壁ならば桁迄立登る也。替りの上窓な
らば如常鴨居より下二頬立する也。丸太に敷
のりたる面附けず戸より押廻して面附ても
不若。二畳一畳半ハ替り高サ三尺五寸幅三尺す
べし。大秘事也。○曲柱立候事横竹間中より短
き所は立ぬもの也。長四畳三畳二畳にては柱
立候て横竹一尺三寸有之故に壁狭くして見悪し
是を見にくし。人々知らぬ故立る也。喜悪し
流儀よくば不立事也。仍て長四畳より畳目の替り
是よく心附て敷寄者たるべし。○曲柱ハ横竹

五寸下にて張たるが吉指渡二寸より
二寸二分迄よく若からず面を附て一寸八九分
二寸とする事也。ぬめ敷居二寸といふとも
柱細くば二寸より狭くても柱さへ能くば
用べし。兎角柱ぬめ敷居と同じ幅とする
事也。両脇表と三方は面をがし附る也。左
なく候へば畳の敷合をすきして悪き也。柱
を建て申すに少し。爐の方へ居掛り候程又
立ちよし。左なく候へば柱仰向て見ある
也。横竹の上より直成ると悪き也。弓形をも

りて天井より八九寸下、節有が吉節を
くば入き節も不若木ハ何木もても不若
乍去櫻なまゝ。黒皮又栗も黒皮吉横竹は
錆竹もよし。充青竹も用枝附吉間中
延たる所にては竹の節六ツ也。柱も竹も細くて
壁れちり仕込にくくば客附の方能程のちり
合こして存の方ちりばなくとも口壁を塗
附候程にしては吉横竹を木より入し候はば
見附八分下は一寸二分計とする事也。横竹の
下の明き二尺二寸也。床の落掛の上の留り木

天井と屋根裏との間の留り木軒の桁の木此所の木三色に替りたる吉錆木なくり木皮舟此三色也若し三色なれば二色も吉三桁ハ錆木中はなぐり木床の方ぬ皮舟吉兎角桁ハさび木なぐり吉皮舟ハ埃溜りて見るも悪床の方ぬ皮舟吉三品の木二所なれば同木は吉中と偶て両方同色なれば悪一校むは嫌ふ也。屋根裡の留りと床の上の留りと向合は本也其時に両股の廻り縁ハ竹也脇に床ある時も床の上の丸太ハ床に附て仕合もの也左候へ

ハ押廻して二方押廻して二方丸木の廻り縁也又二方ハ竹の廻り縁也丸廻り縁木竹共柱を通して仕合也。屋根裏の垂木取替る時の爲めんとめて作るもあり垂木の口をへてめんと押合也其時ハ木舞竹ハ釘かすがい打ぬが吉。屋根裏有之座敷も二両方角の柱をのべて桁もさす也。垂木竹のへとの入し様丸竹に採合せて板のくり口を溝みほりて紙捲を太くより竹一卷まきて餅のりを附て竹一卷附て押込がし左様候へば後々脱すか

の事也。垂木竹連子竹ハ下枝より上を用る
竹下めを枝なく目計ある物也其枝なき
所を除きまより上を用る也。窓上の中
の垂木のく際の垂木より三寸計の節を置
也。免角何きれ所も上下両脇の同寸にせざる
事也。竹縁は割釘也大方押縁も釘打が
吉。連子竹打様上下の節同寸なく物きは
一寸より内、節不置様隣りの節と同寸にせ
ざる事也但並びて同寸あるは事依り不苦
中を候て同通、通あるは決してせ

ず悪き也垂木竹も同連子のめき際も右
心持也貫ハ上下の真中を貫の上端とする事也
○臺目、屋根裏ある時ハ天井留、杉丸太、面を附
て押通、曲柱いたがせて吉一間かけ離きてあ
らば寸法の如く丸木ハ仕附て吉○臺目の天井を
座敷の天井と別々にするは悪、天井縁堅横に
有て見悪、堅も横も坐敷の並して吉
○臺目坐敷の天井同一めて候は曲柱天井
縁を突抜たる様めを見にくし天井縁を曲柱
より引附て通、廻縁の竹を曲柱の内角迄

出して切くつきを見て吉如此、すきば柱を
両方より包みて見く。○風炉先の窗幅一尺
四寸二分長サ一尺七寸 地敷居の上端より具の口
迄六寸五分小股六寸間柱真中の中にある事也
是ハ塗りての寸法也此障子幅一尺五寸八歩長
サ一尺八寸六歩 堅の組子一本横三本釣障子也
角より中墨二寸八歩みはなる打下ハ具の口よ
り八歩下の真中へ一本折釘を打上の折釘と
仕合ス也○風爐先の窓ハ敷居鴨居入候へ地
敷居の上端より 敷居の上端マテ七寸二分鴨居内

内一尺九寸五分の、見附八分鴨居九分立附竹を
入る勝ものゝは柱へ取附る小脇五寸上下
塗附兩脇具の口也是ハ織部好也○圍座敷
ハ二枚襖障子の敷居鴨居の舟法五尺五寸天井菰
鴨居を附て各三但廻り縁ハ上あり○通口の幅
一尺九寸又ハ二尺五分高サ鴨居舟法三尺八寸八分
内八分はひたいの土附分也塗留ハ鴨居の下端よ
り七寸下り梯形より肩をいかす也○
勝手口ハ頬立口と云ハ鴨居の見附九分頬立ハ
九分鴨居ハ頬立いたぐかせ鴨居の出端九分

高十幅梯形の如し。○半間一間の屋根裏に垂木
木兩脇共五本也。○圓座敷の突上りて横に障子
障子を引様にする事窓の切明廣廿八四疊半の如し
窓蓋を横廣く幅二尺四寸五分框の外法にて
堅とももの舟を二寸五分中あせ八分かり
とも中あせより八分下げて幅五分ほりて二分
あせめぬ。夫より三分下げて幅二寸五分
舟の方三分残りてあせめし。淺くほりて以上とも
三通り。な横ともは常の如く二寸六分中あせ八分
かりとも

も中あせの脊し。五分ほり也。堅とものせ
いげ中あせの通し。一寸八分以下を障子通
る八分のほり也。兩方ともら。雨障子
明り障子と入置也。○大突上の事二又間切也
兩の垂木の際にて切留出端其外の寸法の通し
上げめんと木舞共三通り目。切也其外
畧す。○屋根裏の裏板軒迄出す。且廣木舞
木舞竹の脊程残りて上端をさし。板を
打附く。廣木舞一面。そのきつら。吉別
吉別。裏板を廣木舞。裏ぬ出。ふかせ

も吉。○圍座敷の天井板より張時ハ廻り縁角
木より見附一寸二分計りめして中縁ハ竹より
○着りの上玄關口を間中出し候て軒折を
し柱を一方に立て今一方ハ立附の柱めりて
木を少し折を持せて吉此臈木幅三寸五分厚
一寸五分計りて吉間中より内の所より軒を
延したる計りて吉本も折も柱なれば莖膏
くばはね木二所入る也垂木あらばはね木
入て吉。○檜形のぬりてめの類立ハ檜木の柱目と
能々あぶりからして立て念を入候には

塗込の方、すぢかぬを二通り程入るがよ
薄く候故より申候也。○着り掛かぬの坪
柱の角より壁の方より附て打が吉出入り掛る故
也掛かぬも板打タぬ前に裡を通し板にて隠
す也。○突上の棒の長サ窓蓋を真直、突上て
の長サ也中の棒ハ中頃にする厚サ四分幅七分
めりて吉つかの端を上下より違め右也木ハ椀
木吉。織部の棒ハ太サ五分、七分計り長サハ能程
しして吉同寸法、なく長短揃へて明りの加減
をゆる也。○二畳敷又一畳半などよくは着

三尺四方、明る也。○二枚障子引手下よ
り、内ハ七ツ目外ハ六ツ目、但組子、因るべし
此寸法ハ、竪三本横十三本の割也。○梯形の障子
引手内ハ五ツ目外ハ四ツ目也。天井菘八本也、さし
よ、さし、かま、片木地、何れも用る也。

宗偏著 利休茶道具圖繪

四疊半。○石より敷居迄の高サ一尺六寸
○敷居の幅一寸七分、厚六分、軒の高サ疊より、桁の
上迄五尺三寸。○屋根裡、垂木掛の上端迄高

サ六尺五寸五分、右の垂木掛ハ、竹をも用ゆ

○天井の高サ疊より、菘迄五寸九寸。廻りの臺輪、幅表
九分。○天井縁の敷、一間の内、七本、但兩の端共、九
本、兩の腰の二本ハ、臺輪と菘との間に入る也

○縁竹の太サ、二寸六分。○柱の太サ、二寸七分

○床落掛の高サ、五尺一寸五分、同幅、二寸二分、厚一寸
一分、木ハ、枚の丸太ヲ用ゆ

○床の内天井の高サ、落掛の下端より、天井板迄
一尺三寸。○天井の大輪、厚サ一寸六分

○床の幅、疊より、四尺三寸。床の深サ、疊より、二尺四寸

○ 櫃の高サ二尺六分真塗にして細き丸面を取ると同厚サ一寸四分

○ 堂庫の高サ鴨居の下端迄一尺九寸同幅内法にて二尺五分同深サ前の畳より向の板迄一尺一寸五分同棚の幅九寸七分右の棚の間堂庫天井より棚の上端迄七寸同棚板の厚サ四分同棚持たせの幅四分厚三分同棚持たせ小口より三分奥へ入る折也但左の口の前の頬立迄通る也幅七分厚サ三分

○ 同障子組子堅の數二本（組子の太サ寸法は勝手口の障子と同）同横三本障子は太鼓張りに紙の奉書を用ゆ引手は下より二番目と附る

○ 勝手口の高サ五尺二寸同幅内法より二尺同障子組子の數堅二本横十三本引手の間ハ五寸七分残し跡と見合ふ折合する也組子見せ表の厚三分同見込の幅五分右子兩脇見せ表四分半上五分半下五分

○ 右の敷居の溝幅六分深サ一分半強
○ 潜りの高サ三キイノ上ヨリ鴨居の下端迄二尺

二寸五分同幅存法よく二尺一寸同敷居の幅二寸
同類立二寸同厚七分(但松の木手^{テウ}斧^ノの目三ツ
あり)立附の幅九分)同敷居のつかの厚サ七分
椽ミ敷居の幅一寸七分厚サ六分但杉桁片木
目也同溝の幅六分

○戸棧の太サ五分半四方打ち子の幅見サ表六分
半厚サ七分半 戸板のほき四寸五分目板の幅
六分半同厚一分半引手の棧三分半四方(四分
置て打ち也) 戸棧の間下よく九寸六分但存法也
○大べらの窓^マよく敷居の上迄二尺九寸

五分同窓の引^カ青^カ潜^カの方の柱よく竹迄三
寸。窓の障子高サ二尺七寸同幅二尺五寸組子の
敷^カ堅二本横五本。敷居よく間渡^マ迄八寸
五分其上の間一尺。同窓の立附の竹迄^カ潜^カよく
六尺三寸。横の葎の敷十三本^カ堅^カのよりの敷十
本何もし間渡^マの竹共、同窓障子骨見せ表
の厚サ二分半同見^カ迄の幅四分上四分半下四分
○軒の窓敷居ハ直、潜の鴨居を用お故、此窓
の敷居の高サ潜りの高サの寸表を用お同窓
の立附の竹^カ勝^カ手口の柱よく四尺六寸同障子の

さし二尺一寸七分同幅一尺九寸七分同組子堅二本
横四本同窓間渡の竹敷居より六寸五分の所
又其上二尺の所と横二本あり同窓の下一寸
六分のへり壁あり上はな

○下地の敷堅十二本横十本

○突上の縁見せ表の幅五分半同見込の厚廿六分横の組
子六分同障子組子堅の敷一本横三本同組子
見せ表の幅二分半見込の厚廿四分同打子見せ
表三分見込四分同打子四分四方障子紙油引母
して繼目なし。○突上ケ等の太廿五分半四分半

同竿の長廿三尺一寸五分一本一尺四寸五分一本同かぎ
の長廿一寸五分

○おぼなれの長廿四尺二寸同幅二尺六寸同棧四本同太
廿六分四方框六分見込八分おぼなれ竿の太廿五分
六分少強く同かぎの長廿一寸八分勝手の天井の
高廿疊より菘迄五尺三寸

一疊半石据より敷居の上迄一尺五寸

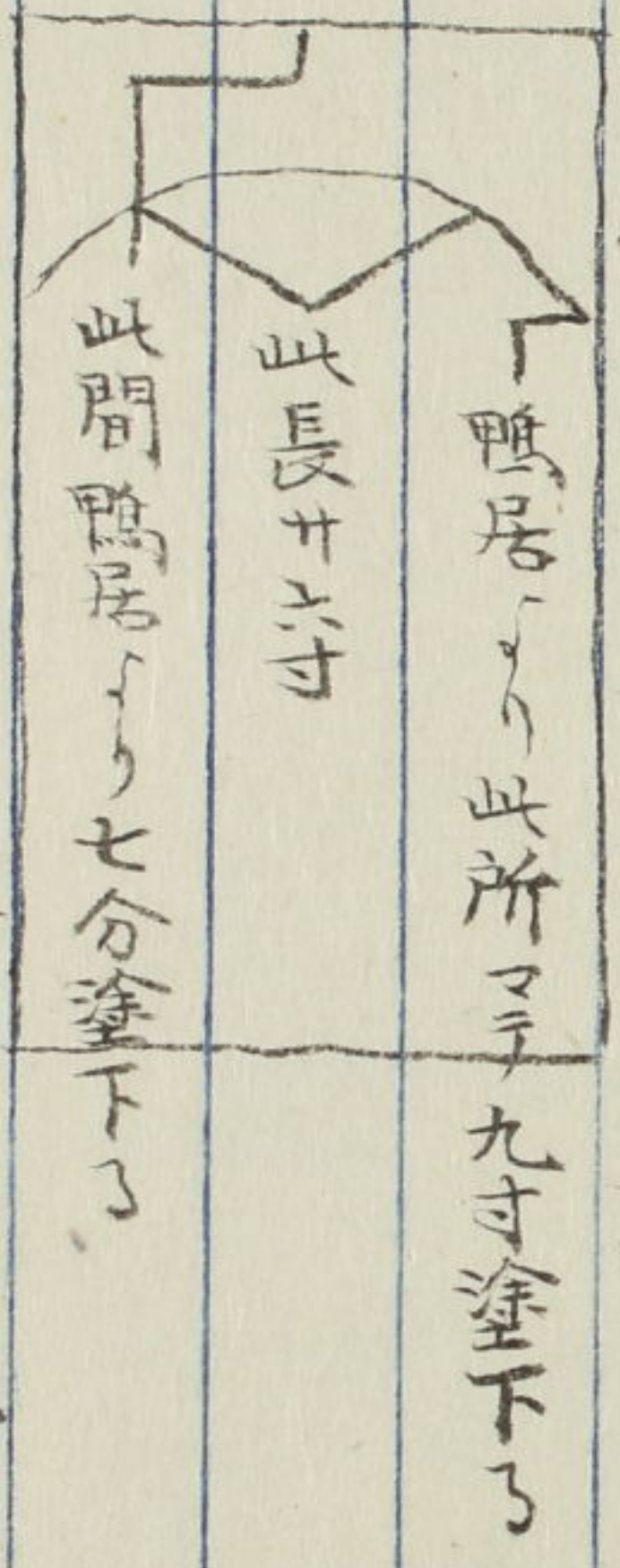
○棟の高廿疊より垂木掛の上迄七尺三寸

○軒の高廿疊より桁の上迄五尺三寸軒の出端廣
木舞の外迄二尺八寸

○ 替りの高廿鴨居の下迄二尺二寸五分同幅一尺九寸五分敷居の幅二寸。○ 戸披、敷居の幅一寸七分杉桁片木目厚六分上下同。○ 立附の幅九分厚七分。○ 溝のあき六分。○ 頬立の幅二寸、少強。○ 但松の木也、手斧の目三ツあり、同厚七分。

○ 潜戸の棧太廿五分半四分。○ 打子見、表の幅六分半厚七分半。○ 戸はぎ、板四寸。○ 目板の幅六分半同厚。○ 引手の棧三分半四方立附より四分半置て打也。○ 戸棧の間下より九寸六分宛あり。○ 勝手口の幅二尺五分高廿鴨居の

下端迄五尺一寸五分。○ 瓦燈口塗廻。○ 繪圖の通、床附る時は尾燈口みせず。



右塗廻。○ 壁の厚廿八分同縁張る事八分。○ 障子組子の數二本同横十三本。○ 引手の間五寸七分残。○ 足跡を折合する也。○ 組子見、表の厚廿三分同見。○ 込の幅五分打子兩股見、表四分半上八五分半下八五分。○ 敷居の幅二寸七分ちり七分。

○惣柱二寸七分。勝手の敷居溝幅六分深一分半。強。○凡燼先の窗隅より立附の竹迄二尺四寸同敷居の高廿疊より敷居の上端迄六寸三分窓の幅立附の竹より塗前より二尺二寸敷居の厚廿八分障子の幅一尺三寸一分同堅一尺六寸五分。○下地窓の真中廿九寸四分の竹の間柱あり。○潜りの上の窓潜りの鴨居の上端より二尺四寸但此窓の敷居は潜りの鴨居を用ひ同幅一尺九寸同両取は小壁六寸あり真中竹の真柱あり廻二寸五分同土の

へり上は一寸六分あり下は五分。○間渡の竹敷居の上より四寸五分の所横有其上は六寸五分の所其上九寸の所横三本あり。○堅間渡二本潜りの立附の方の塗留りより六寸の所潜の跡の方より四寸五分の所より兩所堅二本あり。○同障子組子の敷堅二本横五本同同見せ表の厚廿二分半同見せの幅四分上四分半下四分両取の表三分ツ見せ四分半。○大べらの窗敷居の高廿地敷居より敷居の上端より二尺七寸。敷居より鴨居の上端より二尺二寸

同窓の幅二尺三寸。棟の方小股留りの竹三一尺。
○軒の方塗留り。五寸置いて廻り四寸の竹の
間柱あり。○間渡の竹敷居より八寸五分の所
其上一尺の所より。○堅。二本間柱の間々有
○土の縁下。一寸二分あり。上。立附九分
あり。○障子組子の數。堅。二本横の數五本
障子太。何れも同前。○勝手の方の窓地敷居
より。數居の上迄。二尺二寸五分敷居より。鴨居迄
竹法より。二尺六寸障子の幅二尺三寸五分組子の
堅。二本横五本太。同前。○窓の真中。廻り四

寸の竹の間柱あり。○間渡の竹敷居より六寸の
所其上。一寸二寸の所あり。横。二本立附より
六寸塗留り。四寸の所。堅。二本。土の。上。母
一寸立附。九分あり。下。母。な。
○ろり。畳長。四尺七寸五分。○中柱地敷居の
幅一寸七分横竹の高。下。端。より。二尺一寸五分
○ろり。先板畳の幅二寸一分横竹の節四ツ
○棚の高。畳より。棚下迄。二尺七寸。棚の深。廿
八寸五分。同幅一尺五分。は。み。四。分。半。板。の
厚。廿。四。分。但。板。ハ。澤。栗。也。釣。竹。ハ。表。より。打。也。棚。

一重但二重釣時ハ上の棚も同寸也棚の間八寸五分
○垂木掛一寸七分○軒げく口二寸一分○桁の上にて
垂木の太廿四寸三分○木舞の數廿四通外に
六通廣木舞共々廣木舞幅一寸五分

○床の落掛の高廿五尺一寸五分同落掛の厚廿一寸
幅二寸二分○床の中柱幅表二寸三分○床框の幅
二寸五分同厚一寸四分床の幅ハ一間の舟を勝手口
取て残る分を用ひ○床の深廿疊幅二尺二寸

○塗天井落掛の下端より高廿一尺のほら也
○堂庫の高廿一尺九寸鴨居の下迄。同幅内法にて

二尺五分同深廿前の疊より先の板迄一尺九寸五分
○棚の幅九寸七分但棚の間天井より七寸棚の厚廿
四分棚もたせ四分但棚板より三分奥へ入
打棚の左の方ハ前の頬立迄通る也同厚三分
但幅七分○障子組子の數堅二本横三本同障子
太鼓張也引手ハ下より二番目の組子切也紙ハ
奉書と用骨の寸法ハ勝手口も同前也

○突揚縁見せ表の幅五分半同見込の厚廿六分
横の組子右同○障子組子の數堅一本横三本
組子見せ表の幅二分半見込の厚廿四分打子四寸

同前障子紙ハ油引、してつぎ目な

○突揚の竿の太サ五分半、四分半同竿二本也

一本ハ長サ三尺一寸五分一本ハ一尺四寸五分同かぎの

長サ一寸五分

二畳敷 石、敷居迄の高サ一尺五寸

○敷居の厚サ一寸七分ちり七分

○軒の高サ畳、桁の上迄五尺三寸

○潜の高サ鴨居の下端迄二尺二寸五分同幅一尺九

寸五分 敷居の幅二寸

○風爐先の窓風炉の方より小脇一尺五分

○敷居の高サ畳より敷居の上迄六寸三分

○敷居の厚サ八分窓の敷居鴨居何き同前也

○障子の幅一尺三寸一分同高サ一尺六寸五分

○下地窓真中、四寸の竹間柱あり

○潜の上の窓の高サ鴨居迄二尺四寸同幅一尺九寸四分

○障子の組子敷堅二本二尺五寸五分横五本二尺

一寸三分組子の厚サ見セ表二分半見込四分上四分

分半下ハ四分也何きも窓同前

○此窓風炉先より小脇、潜りの方塗當り六寸

置て廻り三寸の竹の間柱あり

- 大べらの窓潜りの方より小脇一尺四寸同敷居の高廿二尺七寸の敷居より鴨居の下端迄二尺二寸幅二尺三寸。床の方塗面より六寸置て廻り四寸の竹間柱あり。潜りの方塗面より六寸五分置て廻り二寸の竹間柱あり。障子の幅二尺四寸組子の敷堅二本同横五本
- 棟の高廿疊より垂木掛の上迄七尺三寸
- 惣柱敷居の幅二寸七分桁の幅二寸一分
- 垂木の太廿桁の上より四寸三分の割也

- 垂木掛幅一寸七分
- 床落掛の高廿五尺一寸五分
- 落掛の厚廿八分同幅二寸二分

- 床の内の柱幅表二寸三分。床框幅二寸五分厚一寸四分
- 床の幅一間の所勝手口み取たる残を用ゆ
- 床の深廿疊幅より二尺二寸

- 塗天井落掛の下端より高廿一尺のほら也

- 堂庫の高廿一尺九寸鴨居上より同幅存法より二尺五分同深廿前の畳より先の板より一尺五寸五分棚の中九寸七分但棚の間天井より七寸棚の厚廿四分棚持せ幅四分但板より三分奥へ入て板厚三分

左の方は前の頼立迄通る也棚もたせ左の方厚廿三分幅七分。障子組子の數堅二本横三本障子は太鼓張す引手八下より二番目迄切也紙は奉書なり。○勝手口の幅二尺五分高廿鴨居の下端マテ五尺一寸五分。○尾燈口塗廻りの仕様は繪圖の通りなり。床を附る時は尾燈口みせせす繪圖ハ畳半と同。○勝手口塗苗壁の厚廿八分。同障子組子の數堅二本横十三本。引手の間五寸七分残る所を見合折合する組子見せ表厚三分見込の幅五分打子兩脇見せ表四分半上五分半下五分

○敷居の溝六分深廿一分半、強
○潜戸の棧太廿五分半四方打子の幅見せ表六分半厚七分半戸のはぎ板四寸目板の幅六分半厚一分半引手の棧三分四方四分半置いて打也。戸棧の間下より九寸六分宛。○戸棧、敷居幅一寸七分但杉の片木目也厚六分上下同前同溝のあきは六分立附の幅九分厚七分。○敷居のつか厚廿七分頼立の厚廿七分但松の木手芥目三ツあり。○惣窓の敷居鴨居八分同溝の幅五分深廿一分半。○檼の太廿軒の桁の上より四寸三分。木

舞丸の方、十四通同外、六通舟廣木あり(六通の舟、ト云フナリ)
但軒の出端廣木舞の外迄二尺二寸。廣木舞の幅一
寸五分。突上の縁見セ表の幅五分半同見込の
厚サ六分但横の組子の太サ同前。障子組子の數
堅一本横三本組子見セ表の幅二分半見込の厚サ四分
折子見セ表三分見込四分折子四方同前。障子油引
つぎ目なし。突上の等太サ五分半、四分半長サ
二本の中一本ハ三尺一寸五分一本ハ二尺四寸五分同かぎ
の長サ一寸五分。惣窓の大たも縁とく五分半
み五分半框表六分見込八分

○惣窓の仕様 風炉先の窓横幅一尺二寸九分同窓
の堅一尺五寸七分同障子組子堅一本横三本厚前
同。○風炉先窓上の方小壁のへり一寸五分あり
同立附、壁のへり七分下はなし
○間柱風炉の方塗面より二寸八分。間渡若竹
敷居の上より八寸置て横一本同風炉の方塗面
より五寸五分置て堅一本右の窓鴨居より地表
居迄角柱なし。塗廻り也鴨居より上折迄ハ
柱も見ろ也
○替りの上の窓壁のへり上はなし。立附一寸七分

あり下、一寸六分壁あり。○下地の數堅、十四本間
渡、共、同横、十一本

○大べらの窓下、一寸二分の壁、有上、八分

同立附、壁九分。○間渡の竹敷居、より上、八寸

五分の所、其上、一尺の所、二本横、あり、堅、三本

あり。○下地の數横、十五本同堅、十四本、何れ

間渡共。○立附の竹迄、潜りの方、一尺四寸

○圍炉裏、八隅、あり

○惣窓の大、たききん太、廿面五分半同見、込六分半

框幅六分見、込八分。大、たききんの太、廿五分、六分

かぎの長、廿一寸八分

○水遣棚の寸法、長、廿四尺二寸七分、幅、一尺一寸六分、框の

幅、一寸五分、同厚、六分半、棧、七分、六分、釣木、六分、四方

棚下、より二尺四寸六分、釣、其上、八寸一分、宛、四重の棚、

する也、勝手、物掛、檜、長、廿一寸二分、の出、ド、

五寸三分、置、て、打也

木、釘也

茶道具寸法記

昔の座敷は、窓、な、り、明、り、障子、計、り、り、

張附也、尤、床、の中、に、張附也。○座敷、張附、にて

柱の四分一の出端九分塗四分一上六分下三分
脇二分半厚廿何れも二分半但脇ハ二分四方、
もする

○床の中柱の四分一の出端七分塗四分一上八分
下脇前も同上五分半下四分にも近代も
小座敷小書院等の塗縁右の寸法用之

○天井昔は板天井しむく板長片木板なむくむ
軽くしむく押縁は大かこ木又竹にてもする
也此板天井張附の六畳敷の時用之事候
何れも坐敷しむくも板天井の時じ可爲此作

法也。○柱は太廿削り立二寸八分又二寸九分半
三寸もも。○面二分半丸木ハ三分半ももする右張
附の時も常の敷寄屋も大形如此也

○地棟の置所ニ枚障子の桁の中すみから地棟の中
墨迄四尺四寸四方棟のつかは長廿二枚障子の上端
から四尺。○軒の事 かけ込の軒の高廿敷居の上
より桁の上迄五尺三寸又五尺三寸五分又五尺四寸又
五尺五寸又五尺五寸八分又五尺六寸二分勾配三寸七分
又四寸二分茅葺の勾配九寸入口の柱椽框へ取附
る也。○桁椽据石より九寸又九寸八分又九寸五分

又一尺。○木舞の椽をも附る其時は桁の柱椽より先へ出る也竹椽も同事。○椽框の太廿二寸六分又二寸八分同厚サ一寸四分又一寸五分

○入口軒の出端桁の中墨より茅の小口迄一尺

○入口軒の長サすかるの桁の中墨から廣木舞

の外迄六寸七分出る。○入口ろづはり行三尺

一寸五分の時ば桁の高サ地より七尺九寸五分

又七尺五寸勝手も同事也茅膏の時ば七尺六寸

二分又七尺八寸五分。○桁の太サ二寸四分又二寸五分

○入口梁行五尺の時ば軒の高サ地より七尺五

五寸。○かけ込屋根裡の板の出端桁の中墨から

六寸五分かやの出端桁の中墨より一尺二寸五分

三尺かやの厚サ木口めり五寸又四寸五分

○風爐先軒の高サ裏居の上端より六尺一寸五分同軒

の出端桁の下角より一尺五寸。○大目の軒の高サ鴨

居より六尺四寸又七尺二寸茅膏の時ハ六尺六寸

○大目の上の軒の出端桁の中墨より二尺

○勝手の通口の軒の高サ裏居より桁の上迄四尺

七寸又四尺八寸もし同軒の出端桁の中墨より

一尺五寸。○垂木一間の中ハ三本一間半の時ハ五本

○垂木の太サめんどの方より一寸三分より一寸一分まで竹の時も目前の木舞のかげにはめんど木舞も八通り入口はめんど木舞も九通り木舞が太サかけはの方には五分六分七分八分九分六分七分八分九分八分七分六分五分四分三分二分一分の明き一寸五分より三分まで迄する。○急つりの太サ三分半又四分ふち手違かく也

○垂木の出は廣木舞より一寸四分一寸六分迄也

○破風のそば軒一尺三寸。○かいつるそば軒の端より

三寸七分又三寸五分入かく也。○急つりの竹か

ら竹也。○棟の桁額づかの中角より七寸

○枚九太の指渡二寸八分いかるも九寸也

○やなかの桁長サ右目前指渡二寸二分一方二節迄

○やなかの置所棟より七ツ目か五通りめ

○棟のつきかた幅九寸五分厚三寸二分四寸迄よし

○からすかゝりの數五ツより九ツ迄但半寸するも

の也。○破風の巻かやの太サ指渡三寸二分

○顔のなき時。はふの腰板六寸計のを打つもよし

無きもある也。○はふの腰の幅六寸三分又五

寸八分の額の釣様ばかまこゝの下端と額の上
端とすり合。かけの屋根裡の垂木掛の高廿
敷居より六尺六寸又六尺八寸八分又六尺九寸茅葺の片ハ
七尺七寸。○屋根裡竹控木舞裡板しき板かんなめ
木舞のあまこ中筋より五寸二分ツ棟迄する也棟の
桁むな木軒の木何もし雑木丸。○板敷の高廿地敷居
より据石の上迄一尺四寸又一尺五寸又一尺五寸八分又一尺六
寸五分又一尺七寸五分。○地敷居の厚廿一寸七分又一寸三分
又一寸五分又一寸六分床の内地敷居は口傳有之
○鴨居の厚廿一寸七分幅は柱の太廿に可依

○中柱の太廿六寸七分廻り但大抵也。○横木の高廿地敷居
より横木の下迄二尺二寸又二尺三寸。○地敷居の幅一寸九分
又一寸九分半。○横木の厚廿八分又九分同幅二寸二分
横木竹の片一本より一寸三分又一寸四分但し柱の取合
み依べし。○節數四ツ節あひ本より二寸六分又二寸三分
又一寸九分竹も本も本中柱の方へ
○天井の高廿板の面より地敷居の上迄五尺九寸又五尺九
寸二分又五尺九寸七分又六尺。二分又六尺一寸又六尺五寸
又六尺七寸又七尺一寸一分。○天井大目の上計所依りて
五尺七寸八分とする事も有。大目の上計も天井も

するなり。○天井の廻り縁床前の留り一寸六分四方
末の方床前とまりの上の竹本とく六分半。○軒の留り
一寸七分但存とく一寸四分さぐる惣やくの廻り縁木
とく竹とくも厚サ八分より九分半迄とく。面一分半
木の時は幅一寸六分又一寸七分。○天井の押縁の厚サ六
分より七分半迄とする也。○縁の敷一間七通。押
縁竹の時軒の留り一押附と一本打也。押縁竹の時
差渡一本とく六分より七分迄とする也。

○床の幅畳一間深サ二尺九寸五分又二尺五寸又二尺六寸
又二尺三寸又二尺三寸四分同幅四尺四寸深サ二尺四寸又

同幅畳四尺三寸深サ畳二尺四寸六分同幅畳四尺深サ畳
二尺四寸又二寸二寸。○床の四分一見附七分木は柱目とく
○床の天井の高サ地敷居の上より板の下迄五尺
九寸七分又六尺六分又六尺一寸一分又六尺四寸一分又
六尺六寸四分又七尺二寸五分又七尺三寸又七尺六寸五分
○脇も天井も塗廻りたるをほら床と云。袖
壁の附たるを袋床と云。板天井とく脇も塗
廻りたるを塗廻り床と云。○床の天井大
輪の厚サ一寸四分幅一寸五分又一寸厚サ幅
一寸三分半四角とくする

○床櫃の高廿二寸六分幅一寸四分同高廿二寸七分
 幅一寸四分半同高廿二寸七分幅一寸五分同高廿二
 寸五分幅一寸四分櫃竹の時は高廿二寸四分幅一寸四分
 ○落掛の高廿落掛の下端より床櫃の**下**端**マテ**
 四尺八寸三分又四尺九寸五分又五尺一寸又五尺一寸
 六分又五尺八寸二分○落掛の幅二寸六分厚廿八
 分又一寸一分又一寸五分同幅二寸四分厚一寸一分半
 同幅二寸三分又二寸六分厚一寸二分
 ○床なすくみ大びらみ掛物花入掛るも有べし
 ○床の内墨蹟掛候釘の打様大音は大輪より五

石の云此九
 分トアルハ出
 ナラシ張サテ
 寸五分打込
 登三分打込
 九分ノ出ナラ

分下げて打也一寸も下る○竹の釘の長廿九分はね
 二分何れも竹釘皮目上み致候共掛物掛候竹計皮目
 下へ致候○大輪の下より八分下げて釘の出端九分
 又一寸下て釘の出端九分も又九分下げて釘の出
 端一寸も○三ツ釘皆竹にする時は中の竹一分短
 く打申候○墨跡掛竹釘の太廿切口よりひらみ
 一分半厚一分面三厘程○坐敷に環羽箒柄杓
 懸候竹釘上の切口より太廿一分厚一分弱
 是れ四方面二厘程打様口傳あり○床の内花入
 懸候折釘の高廿地敷居より三尺六寸九分又三尺

七寸五分又三尺一寸二分又三尺一寸五分又三尺一寸二分又三尺一寸五分
寸又三尺一寸五分。○床な。花入掛候時地敷居
より折釘迄三尺八寸又三尺八寸六分。柱は花入掛候折
釘の打様落掛より落掛より一尺二寸六分下め打又
八寸下。打事も有。石菖云落掛の高低依る。茶道登席
日柱落。魚より一尺一寸下。打も。床縁だ。より上
打あり。○柱釘は向壁より一尺二寸五分。きざり
○舟の花入掛候折釘振分真中。打。床の中
釣時は天井に蛭かぎめて釣也

○三重の釣棚廣廿八寸六分四方。二重の棚の間六寸三重
の棚の下は横竹より下也。棚の間上のは五寸九分
但是、横竹の下端より棚の下迄板の厚廿四分半
釣木のあやむ所板の厚廿一分。弱
是は三重の棚の下の釣木也。木はかた木。釣
也。石菖云釣棚は桐又ハ板もあり。登席。詳ナリ
二重棚下の棚横木。持せて棚の長廿八寸五分幅
八寸棚の間七寸板の厚廿四分。棚の大廿上下同然
利休常。用られ候。同二重棚上の棚横木。持
せ下の棚は横木より下る。棚の長廿一尺一寸五分

幅一尺五分板の厚サ四分はしはみ五分半釣竹上
は木舞へ打也横竹の方桐の木棚板幅六分厚四分
棚の大サ上下同様同二重棚下の棚置し一尺八寸下
の棚の長サ一尺一分幅八寸八分下の棚板厚サ四分半は
しはみ五分三厘上の棚長サ一尺三寸八分幅一尺九分
上の棚幅廣きは依て凡燼先の窓の鴨居丈げ奥へ
へに依て幅廣し口も脇も揃へて釣申候利休被
用也同二重棚下の棚長サ一尺一寸幅九寸三分下の棚
板厚五分上の棚長サ二尺八寸幅一尺一寸上の棚板厚四分
棚の間七寸三分釣木の幅五分半厚四分釣様先の角

へ附て釣木は上の棚の少奥へ寄り留り申候

同二重の棚地敷居し下の板の下端迄二尺三寸三分
半棚板の幅九寸五分長サ一尺五分板の厚四分半棚の間
七寸三分同二重棚下の長サ一尺二寸三分幅九寸五分但し
下の棚を八寸五分四方しす也上の棚の長サ間半幅
一尺二寸ばしはみ五分半上の棚厚サ五分下の棚厚サ
六分棚の間八寸四分釣木の幅五分半厚四分釣様前
み同し

○一重棚長サ一尺五分幅八寸五分板の厚四分は
しはみ五分半釣木の長サ一尺九寸太サ五分半四方

同一重棚長サ一尺七分幅九寸三分板の厚サ四分はし
たゞ五分半釣木太サ五分半四方棚の高サ置足
二尺八寸但シ坐敷ニ依るべし(以下二重棚三通リアリ略ス)
○座敷の潜り高サ二尺二寸五分幅一尺九寸五分
頬立の厚サ九分同幅一寸九分半たゞ九分四方
敷居鴨居ハ扱ミ也幅一寸七分又一寸七分半同厚
七分又七分半 同潜りの高サ二尺三寸五分幅二尺
一寸三分又高サ二尺二寸六分幅二尺七分又高二尺四寸
幅二尺二寸又高二尺二寸五分幅二尺一寸又高二尺二寸
幅二尺 ○敷居の高サ石ノ一尺七寸又一尺七寸五分

敷居の中二寸二分同厚一寸七分鴨居の中三寸二分同
厚九分半はきみの幅一寸七分又一寸八分扱ミの厚サ
五分半又六分半上下柱へたゞ三分建附の太サ九
分半同厚サ八分戸框の幅九分又七分半同厚七分
又五分半 棧も押廻し 上の棧と鴨居の間一寸七分
戸跡脇板の幅四寸二分ニツ折目板の幅九分又七分半
同板の厚サ一分半引手の幅五分同厚四分又四分半
引手框ハ一分掛く打也。勝手口の口一枚障子入口ハ
用之 高サ五尺六寸七分鴨居の幅二寸六分厚一寸八分
さいの幅六分厚三分弱 溝六分敷居の幅二寸

五分厚一寸七分半溝七分障子組子の幅五分半厚三分半
あぜ三分弱框の幅五分半厚五分組子横十三本堅二
本上の打子の幅七分半下同五分強。戸入口も勝手
の口もも可用 框の幅八分半強厚七分棧の幅七分厚六
分上の棧と鴨居との間一寸五分但さいの下端から板
は一放板也 釘のあよび十二。襖障子入口も勝手の
口もも可用 くるふちの幅一寸七半分厚四分
強とぶ入のくろ縁五分下のすしりさへ五分但上の
さいより二分あきる。引手の高サ敷居の上端より
引手の下端へ二尺六寸二分脇のくろ縁より引手

の間三寸二分引手の長サ一寸七分中一寸二分敷居
の幅二寸一分溝五分半あぜ二分半強
○二枚障子入口も勝手の口もも用
一間二枚二枚の鴨居の高サ五尺二寸又五尺三寸七
分半又五尺二寸九分又五尺三寸 鴨居の幅二寸六分厚
一寸二分又九分 敷居の幅二寸八分溝六分半又六分
あぜ三分框の幅五分半厚五分障子の組子堅二本
横十二本 ○勝手口の高サ五尺一寸五分幅二尺五分
同高サ五尺二寸中二尺同高サ五尺二寸五分中二尺三分
又二尺一寸同高サ五尺三寸四分中一尺九寸二分同高五尺

六寸七分幅二尺鴨居の幅二寸八分又二寸六分同厚九分半
又二寸八分敷居共幅二寸九分又二寸五分厚一寸七分又
一寸七分半 一三分溝六分竹の類立節あの上
四寸七分同下七分又二寸節數五ツ竹の太廿本一
差渡 一寸九分木の類立の幅一寸九分同厚九分半
障子組子 堅二本横十三本但太鼓張也右の勝手口
瓦燈口ももすも也萬同事。通いの瓦燈口高廿
三尺八寸又三尺九寸又三尺九寸六分同横中一尺守三
分又一尺九寸三分又一尺九寸五分檜形板の幅七寸
上のまも四寸六分は直に上は一寸残 一 丈一

両方柱の内法振分さ 一 あくる鴨居 一 五分かけ又
下へ五分さげて取附る也類立の幅一寸七分半厚廿
九分半敷居の幅二寸九分厚一寸七分縁三分溝六
分鴨居の幅一寸五分厚一寸四分障子組子 堅二本横
九本但太鼓張也。○おけの突場窓中 一 垂木
を狭し一こま切り 一 兩脇のふつり 一 振分 一 三ツ
宛のけり窓の中一こま 一 成る如く切也一こま 一 三
は一尺五寸七分半の事也長廿木舞中角五寸二分宛
一 あり 一 三通切也。○樋横引の時 一 厚廿一寸八分
障子箱の間八分といの下端をかき 一 両方 一 引分

みする也すゝ場の際は樋の厚サ一寸二分惣様
といの幅六寸又七寸あせ窓の舟法五分半溝五分
くゝりのめんとあせ七分又八分大溝二寸五分又三
寸横といも同事軒のめんと障子横引の時ハ屋根
裡ハ附立のあせ二分溝六分つく也すゝあせ
の時ハ溝なゝみ下より八分さくゝ深サ一分半
みする也木舞の端よりより三分出るもあり
出ぬもあり障子組子堅之中一本横中三本
障子框の厚サ四分幅五分八厘組子の厚サ二分幅
五分突あけといは窓の廣サみ四方一一寸一分宛
廣くする也

○勝手の突上一こま半二こま三通切らせ其外右同
断上間の突上二子木舞四通り切也めんと先掛は
なゝくも板ありくも板と云とかやしり仕廻
成兼候より板を打也惣て此板計くも板と
云也木舞の端垂木より八分此外萬右同前
○尺八竹の長サ七寸二分中又節あり短き方ハ節
より二寸六分是より短き尺八四寸五寸五分もする
也節の込の様同前
○入口かや裡の上つゝ四尺四寸二分小杖二尺八寸五分

かけ込あげつ急三尺二寸小杖の長サ一尺六寸かけ込
くらしりのあげ杖長サ四尺四寸二条也押だもし戸
の杖三尺八寸勝手杖二尺六寸五分右の寸法大抵如此
也。○下地窓敷居鴨居の厚サ七分幅一寸四分あげ前
より二分溝四分敷居溝深サ一分鴨居の溝の深サ中
より四分両脇より三分又敷居の幅一寸五分厚九分又八分
あげ前より二分半溝五分又敷居鴨居の幅一寸六分厚
九分あげ前より二分八厘溝六分釣竹の太サ指渡七分
同はな出端四分又五分同節二寸三分より四寸六
分迄。○大下地窓敷居の上より窓敷居の上

迄一尺九寸六分又二尺三分又二尺三寸窓の高サ
舟法二尺五寸同横舟法二尺八寸障子框厚サ四分幅
五分八厘上の打子厚七分下の打子厚五分組子厚
サ二分幅四分八厘組子堅中三本横中五本又六本
障子上下とくるもありどぶ入にするもあり

○小下地窓但軒の窓とも云高サ地敷居より窓敷居
の上迄一尺九寸六分窓高サ舟法一尺七寸横舟法二尺
一寸柱の股一寸四分の塗出し有り障子組子堅
二本横四本。○風爐先の窓の高サ地敷居より窓
敷居の上迄八寸三分窓高サ舟法一尺九寸三分横舟

法一尺六寸六分戸跡の小脇九寸五分敷居入候時は
地敷居の上より窓敷居の上迄七寸七分障子組
子堅中一本横中四本掛障子の時也

○勝手は窓高廿地敷居より畳の敷居の上マテ
一尺一寸五分窓高廿内法一尺七寸横内法一尺九寸戸
跡ハ障子あけて一杯成る様にする也風炉
先の窓鴨居の上つら成縁手の窓の下つら母鴨
居を持しても取附る下地窓にも連子にもする
也障子の組子堅中二本横中三本連子の片
々格子敷三本打也此窓道安利休一談合

の窓也口傳あり道安の作也○下地窓但座敷の
入口軒の窓也座敷に因り何方にも吉高廿地敷居
より一尺九寸六分窓の高廿内法一尺六寸四分横内法
二尺二寸四分柱の脇小脇一寸一分あり釣竹戸跡
の方、四寸二分よりせりあり釣様鴨居柱へ通る也
鴨居ハ釣竹より切つる竹延る也○下地窓地敷
居より窓敷居の上迄二尺二寸九分窓は高廿内法
一尺八寸横内法二尺九寸三分塗当三寸六分釣竹
柱から四尺八寸七分障子組子堅三本横五本
○下地窓高廿地敷居の上より窓敷居の上マテ

二尺窓高ナ存法二尺四寸六分横存法二尺四寸五分
障子組子堅中ニ本横中ニ本掛戸掛障子
簾の寸尺ナ〜あみ目心持たるニ〜右七ツ
窓ト申也あけ所地敷居ノりの高ナほニらひ
好ニ因テ相違有ヘき也。連子窓敷居の高ナ
幅二寸四分厚七分あぜ前ノり二分溝四分頬
立の厚ナ七分幅二寸二分敷居一分鴨居の溝深ナ
中ノり四分兩の脇ノり三分又敷居の幅二寸六分
厚八分あぜ前ノり二分半溝五分深ナ上下共右目前
頬立ニ厚ナ八分幅二寸四分又敷居鴨居の幅二寸六分

両方ヲ框ト云
ト上下ヲ打子

厚ナ九分あぜ前ノり二分八厘溝六分深ナ上下右
同前釣竹差渡七分節あハ下の端ノり二分三分又
二寸六分はなの出端四分五分竹連子ハはな上七分
下ニ六分貫の幅七分厚五分半。六本連子窓の高
ハ地敷居ノり窓敷居の上迄一尺九寸六分又一尺九
寸八分窓高ナ存法二尺三寸五分又二尺一寸七分横存法
三尺一寸四分又三尺二寸障子框の厚ナ四分幅五分五厘
上の打子七分下の打子五分組子厚ナ二分幅四分八厘
組子堅中ニ本横五本。七本連子窓高ナ地敷
居の上ノり窓敷居の上迄二尺三分窓高ナ存法

二尺二寸三分又二尺九寸横内法三尺六寸又三尺六寸三分障子
組子堅三本横五本六本此窓替り上りも明る也
座敷の内、明る時け地敷居の上より窓敷居の上マテ
一尺九寸六分又一尺九寸八分又一尺二寸五分

○九本連子の窓の高サ内法二尺二寸七分横内法四尺五寸
二分貫の幅八分厚六分此窓所、依り貫外より打
事也 **地敷居より窓地敷居の上マテの高サなる**

○五本連子窓高サ地敷居上り窓敷居の上迄二尺
六寸一分窓の高サ内法一尺七寸七分横内法二尺三寸七分
障子組子堅中、二本横中、三本

○十二本連子窓高サ地敷居の上より窓敷居の上迄
一尺八寸七分窓高サ内法二尺二寸五分横内法五尺六寸
二分障子組子堅中、二本横中、四本但二枚障子
也右連子窓の障子上下さくるもあり又こぶるも
する也惣別連子窓、近代座敷も明々申候へ
共非本意、先ハ勝手書院小座敷など物の候
間明け様尚好次第の事、候大形茲に記す物
也 ○床の窓高サ地敷居より窓敷居の上
三尺二寸八分窓高サ内法一尺六寸七分横内法二尺
四寸床前の柱の際、一寸四分の塗出、あり障子

組子堅一本横三本 ○床の窓高サ地敷居ヨリ
三尺一寸窓高サ内法一尺九寸横内法一尺四寸三分
○床の窓高サ地敷居ヨリ二尺六分魚のさるサ内法
二尺一寸二分横内法一尺八寸一分 ○床の魚高サ地敷居
ヨリ二尺九寸八分魚のさるサ内法一尺五寸横内法一尺二寸

茶道全書 数寄屋圍諸事寸法之事

柱は二寸九分 但二畳半ハ二寸八分も
敷居は柱より少細ノ仕候高サ七寸七分
板敷の高サ畳マテ一尺七寸 但板の上マテ一尺五寸

○天井の高サ板敷の上ヨリ天井廻りふちの下マテ五尺一寸五分
分但六尺一寸も ○天井ふちばは雨のあとの間
且一本ツ廻りふちの高サ一寸五分但一寸二分も
○天井のそより木末口差渡ミ一寸二分
○茅屋のかくもい八寸三分但軒の出端五寸二分
○板ひさしのかくもい軒の桁より棟の方より一
尺四寸高く仕候大形四寸二分かくもい軒出を
五寸二分也 但桁の中墨より也
○突上げの事
○幅一本舞 但檜木竹一本中み見申候大方幅

一尺六寸 ○竹木舞の間は竹二本の中墨より五寸一分ツ

○同じき上の舟より木舞三通り切申候右の通し仕五寸一分に仕候へば棟の方より木舞少せもしく成り候

○はき上げの幅一尺六寸み切候へば両れ端のかいはるみ舟を両れかいつるは少右左へ片より打やう

額の袴腰板の事

三畳臺は幅六寸二分。四畳半は幅七寸八分
掛けや折釘ハ額の大小に依り不定

隣り上り着りの事

高廿舟法二尺二寸五分 幅舟法二尺

凡が先ノ着りハ横木ヲくくアミノ立舟柱と

窓ノ敷居ハ何も九分也かやうらの幅九分
厚サ七分さへハ七分押込ノ敷居とよりノ棧
ハ八分也

隣り上り鴨居厚サ一寸一分半

床の寸法の事

畳の長サ四尺 横二尺四寸

框高サ二寸六分 幅一寸四寸

落掛ケの下端より 框の上端迄四尺八寸四分

落掛厚一寸一分 幅二寸五分

天井洞深サ廻りふちより 下端より 落掛の上端

マテ二尺大りより 床をへ上より 天井板マテ七尺三

寸

地敷居同柱共ノ四分一は 壁ツラより 八分ツ

通口擋板の事

高サ三尺八寸 但地敷居より 横一尺九寸五分

山形の下ノさかり 七寸三分 厚サ

此山形トあるは 擋板の事トいふたものなり

又厚サ何れども 銘板のみハ 後して下の事

ト書記す

通口ニ枚障子高サ五尺六寸一分但床ノ落掛
ト木ノ間五分置也

同上の障子板ハ天井縁ノ下端鴨居ニ用テ敷居
は下ノ戸ノ鴨居ノ上ヲ敷居ニ用テ

勝手口の事

戸口ノ高サ五尺三寸 横二尺

方立ノ幅九分 廣サ一寸五分

鴨居敷居ハ柱ノ幅同前鴨居ノ厚九分

立舟との色紙窓ノ方壁より二尺五寸のけ

て戸よりせより小壁ハ残り次壁ハ仕る也

中柱の事

柱ノ幅二寸四方又一寸九分ニも但梅の下ノミナツト

ノ舟と名指度 柳字不為

横木幅二寸二分内もろハ中柱ハ黒くも苗

々を 横木と竹連子の敷居ニ用テ後

母角の柱を通 厚サ九分

横木中柱ノ方をも中柱ノ中ニ置テ切首ノ

横木ニ用サ 地敷居ノ上ヨリ二尺九分後

一尺五分也何れも内法也

圍が裡ノ事 中柱の面と櫛と同也 仕候

右の通に田舎裏ヲ入棚下板を餘り次第
舟入申候 此下板よりハ、*臺目等の先板*
をいへる

横木の下地敷居も中柱のつゞき目前也

中柱に袋掛けの折釘のつゞき横木の下端より
折釘の下端四寸五分也折釘ハ臺目より付

臺目等の事 附二重棚の事

置長四尺七寸三分 *六尺三寸京間四分の三*

中柱ハ臺目ノ内ニテ 仕廻申候

上の棚板の厚サ四分半幅九寸八分長サ一尺四寸
七分何れも壁つゞきより *太さ*

此三寸とあるはふも

下の棚板厚サ五分幅八寸七分長サ横木のつゞき
より九寸七分

をいへる *をいへる* *をいへる* *をいへる* *をいへる*

上の板より下の板より六寸二分

中の釘木ハ六分四方

上の板のまゝをいへる一寸一分中より下下の釘
木をつゞきより *但袋板*

此釣木不敷 笠棚の寸法も不敷

下柳ノ法ノ木ハ木口ヨリ八分脇五分中ハ五分

此はし木の寸法も不敷

風爐先窓の事

高サ一尺九寸七分同幅一尺四寸三分

窓の横木の先打廻一壁角つゞゞ四寸

八分小壁ヲ見ル

窓高サ五寸の上ヨリ一尺二寸五分鴨居も敷板

又ハ一冊頁也

鴨居敷板の寸法いかゞ又寸法も不敷

ハカケの事

同床の事

落懸の下ヨリ鴨居の上マテ九寸同天井板マテ一尺

ハカケの高サ三寸五分幅二寸三分四分の也

おとハカケノ幅三寸四分厚サ二寸

ハカケの事 魚ノ尺同六尺五寸

天井ノ高サ五寸ヨリ天井板マテ七尺五寸但天井板

ハ一枚中ふちな

天井大輪ノ高サ一尺八分厚サ一尺角つゞゞ

寸

壁の四分一、大形のも一寸三分、
張舟の四分一、黒ふちを一寸三分内、黒ふち三
余。黒ふち三分半、但面は三分
同床殿のおと、
同幅三寸四分、厚一寸五分

床脇押込の事

天井の黒ふちより天井板を六尺六寸
おと、
日影黒ふち二寸四分、幅二寸六分
大掃高一寸三分、幅張舟四分一、つ、

中ふち高一寸二分、幅二寸四分

同押込縁の方下地窓の事

高廿五より一尺、寸六分、但黒下窓を

黒下窓二寸八分、厚二寸、寸、溝の筋四分半

溝の幅六分、但張舟も同前

牕ノ立高廿二尺二寸三分、横一尺八寸

障子骨の事 此障子骨の窓の障子

両のかわら幅七分、厚五分、おと、黒下窓を

五分、上ノ黒下窓を五分

組子幅三分、厚三分半、立中一本、横中四本

牕
ト
非
不
牕
字
云
也
下
ト
二
用
又
ハ
誤

五尺七寸六分内のり戸事

両ノ框立角一寸分半 厚サ一十二分

横ノさへ五本一寸半 厚九分(于一半ハ誤リなき也)

さへ一さへのさへ尺二寸六分のさへ也

此さへのさへ割角のさへ也

腰障子の事

両ノかまら立角一丈一寸 平ノ方一寸二分

上中下ノかまら高サ一寸 厚サ一寸五分

腰板高サ敷居ノ上ヨリ中ノかまらノ上マテ二尺四寸

まのり厚サ四分幅九分ら表とも中ニ三本

組子厚サ六分幅七分半立三本横七本

まのり障子の高サ幅如何又組子ノ厚幅もいかに

障子引手切ノ事

唐出口の方引手切様五ツ目内四ツ目也

唐出口ハ通ロク

勝手口引手七ツ目外ハ六ツ目なり

内外の切様緒のさへ方ハ内のさへ一ト組子高ミ

通ロの方ハ内のさへ一ト組子低

勝手袋棚寸法

幅外法八寸五分 七サ一尺二寸五分

用キ戸長廿九寸七分高廿八寸ヨリ
 戸脇ノ立板幅二寸三分板厚廿四分半
 錠前つ不_レ二寸八分さけ_レ但外の
 上柳ノ幅九寸八分壁ノ_レつ_レきん
 同長廿一尺七寸五分上柳ノ下柳ノ高七寸
 片_レ木ノ幅五分四分但片_レ木ノ方_レ片_レ木ノ角
 十柳ノ角_レ片_レ片_レ木
 片_レ木_レ板_レ厚_レ廿_レ長_レ下_レさ_レき_レ三分
 角_レか_レき_レ片_レ木
 ひ_レき_レつ_レあ_レ六_レ角_レニ_レテ_レ戸_レ上_レ下_レ其_レ中_レ木_レ口_レ

方ヨリ九分入_レテ片_レ木_レ廿_レ六_レ分

右_レ上_レ柳_レ幅_レ二_レ寸_レ三分

此_レ指_レ子_レ錠_レ前_レ云_レ物_レ何_レ寸_レ法_レ不_レ合_レ何_レ寸_レ法

新選増補大匠雛形大全

數奇屋之部 諸句配口傳

數奇屋立繪圖 同建物諸丈尺

利休居士好 千宗且隱居四疊半

宗左好 織田有樂好

小堀遠州好 古田織部好

千道安好 平野屋宗貞圍 織ア好

此外圍の圖數々アリ

小室敷の丈尺大概

柱の太サ二寸四分角

床高廿一尺六寸

惣廻りの軒丈高廿疊より六尺三寸五分桁の上端

まゝ

隣り上り

替り鴨居舟法二尺六寸 横舟法二尺三寸六分

頬立の幅一寸四分二厘、七分二厘

鴨居の中二寸二分七分二厘

替り戸

釘ハ板一枚、セツ打也 框九分半、六分半

板丈巾四寸六分

替り上へ大竹連子

鴨居内法一尺九寸五分 横舟法四尺三寸三分

竹太廿六分半 竹數九本 貫キヲ通スカ

障子竹障子二枚 豎三本 横四本

小壁の方代 頰立巾二寸二分 七分二厘

鴨居の中一寸八分二厘 七分二厘

中敷居の中二寸二分六厘 厚廿一寸四分四厘

連子の所より七分三厘かく

頰立代のかゝり七分二厘 小壁二寸七分八厘

通先

下地窓敷居の上端より一尺二寸五分

鴨居舟法一尺九寸五分 敷居鴨居ノ厚廿九分半巾

一寸一分

窓の高十舟法一尺六寸九分 横巾舟法一尺九寸一分

上ノ塗出〜一寸二分下ぬり出〜一寸四分

二枚障子つきの方柱づゝり四分のぬり出〜

とせし〜り 五分つゝ中ずきと一寸とせし〜り

九寸五分 豎二本也 下の塗出〜り 五分つゝ

中ずきと一寸三分とせし〜り 七寸九分 横二本

竹障子の横巾一尺九寸八分 かまもり代太廿四分 四

分八厘中の組子二分八厘目付 堅二本横四本但皮付
かまもの上なるこ

同所軒の下地窓天井廻りふちの下端より三寸
四分下る 高廿八寸法七寸 横内法九寸六分

上の塗せり三寸四分とまきりふちの中すこ
三寸。同柱のつくりを寸五分塗せりま

りふちの中を寸四分
掛障子木なり 堅九寸八分横一尺二寸四分かま

三分四分七厘中子二分三厘四分半 堅一本横二本
天井高廿板すく五尺九寸五分

二通口

鴨居内法五尺五寸 横内より二尺三寸

頬立巾一尺五分厚一寸 鴨居中二寸二分厚廿一寸
鴨居法の外頬立の外より一寸出る

同所釣棚高廿疊より一尺四寸五分但下端マテ
板の長廿一尺一寸巾九寸三分厚廿四分半

釣竹太廿五分半 節七寸上ハ七寸下ハ六寸を分
ち各四分半出

竹の目ハふちり上の柱をこる 天井五尺八寸八分
ゆりぶち太廿指渡り一寸二分

棹縁立三通、但二本ツ並べ差ここ、四分半の竹。板厚八寸七分

二枚障子

鴨居内の、四尺八寸五分、横内の、四尺六寸、目中二寸二分半、厚サ七分二厘、方立中二寸一分半、厚サ七分二厘、引手舟ハ五ツ目外ハ六ツ目

床

框の高サ二寸四分、厚サ一寸一分、落掛厚一寸八厘、中二寸二分半

同舟法四尺六寸二分、横舟法三尺八寸二分、深サ柱舟法二尺二寸四分。畳の長サ三尺八寸二分、中二尺三寸二分。床の舟高サ框の上端より五尺一步舟、ぬり廻り、ぬりおと、掛の上端より天井まで四寸

竹釘太サ一分半、丸く打やく天井より二寸七分下る釘、二寸六分出、此釘の事ハ掛物ノ釘なる寸法、花生釘ハおと、わけの下端より一寸一分、向ハ一寸九分又ハ六寸より打なる

此一寸九分又ハ六寸より打なる事ハ不なる

床こき下地窓

地敷居の上端より高廿竹のこはりの上掲迄
二尺五寸四分をこはり竹の太廿五分を路二ツみ但
皮つき

窓の高廿内法一尺二寸八分横内法一尺二寸八分
床柱より塗出四寸をこはりより急つり中
下こきを七寸八分

下こきより急つり中ずこきを七寸五分
掛障子巾一尺四寸高廿一尺五寸七分
中の子竹組一丈一本横三本。框の太廿組子の太廿

と同日

床柱のつりより竹中ずこきを一尺八寸九分
つり竹太廿六分ふり五ツ

同所下地窓地敷居の上端より中敷居の上端迄
二尺三寸五分。鴨居内法一尺七寸

中敷居の中一寸三分厚廿六分半鴨居巾厚廿同断
隣より柱つりより六寸五分の塗出より

より窓巾一尺五寸八分上下ぬ塗出より
六寸五分の塗出より急つり中をこきを五寸
五分

中裏居上端より多づり中ずきまを一尺一寸三分
三分堅一本横一本より皮付なり
障子中一尺八寸八分框の太廿四分五分中ノ組子
竹四分半一分六厘堅二本横三本

いろりの上天井の高廿板を五尺八寸廻り
縁竹太廿指直一吋二分
棹縁の太廿指直一吋四分半の竹二本めび中
又四通り但天井のとほり枚を二枚まきほり
り一吋八分

ナカ
長片
ノ子ノ事
テ
長片ヲ
子ト読也

天井長き板敷十六枚巾二寸五分
床前天井とどとほりの外つゞきを一尺七寸四分
天井長き板敷十六枚巾二寸五分
棹縁竹太廿四分半二本なび中二通り
天井とほり松ひんむきまづり一吋七分げづり立
物心軒のきり廿五より桁の上端迄六尺三寸五分
同下の檜木掛上端まで五尺九寸五分
垂木掛の高廿一寸七分 檜木くけ壁より出七分
天井のとほり下端より 垂木くけの下端まで
一尺三寸五分

檜木懸 さし一尺一分六釐の竹

たる木敷四本中に二本

かきこまい太廿四分半二本ツ中、五通

めんと木舞一本ツ

屋根裏長片板敷十九枚板巾二寸三分ツ

かきこまい四分半おしめりきかき竹三通

勝手通口下地窓

天井廻り縁の下端より二寸五分ぬり出し

通ひの柱のつらより一尺五分ぬりし

窓横幅一尺三寸高廿七寸二分

上の塗せしよりあつち中すきを八分

それより二寸四分又それより二寸五分横三通

通ひの柱塗じのよりあつち中すきを三

寸七分それより七寸九分掛障子木長廿一尺

一寸四分横巾一尺四寸五分 竪二本横二本

框の太廿三分、四分七厘中の組子竹二分三厘、四分

半。天井の高廿板迄五尺八寸八分。廻り縁

さし一尺一寸二分木也

さし縁四分半の竹二本あつち中通

襖障子引子高廿二尺四寸六分下端まで

板どくこ二寸一ち

棚下巾六寸長サ八寸厚四分半但中の棚下同じ
上の棚もきの間九寸先より一尺五寸七分巾六寸
厚サ四分半

棚高サ地敷居より下の棚下端より一尺七寸
七分 中の棚下の棚より五寸五分

中の棚より上の棚より二尺一寸四分
釣竹の太サ四分六厘節五ツ上げ一寸下ハ二寸七分
かけもふ下四分半上ハ五分

敷奇屋立繪圖に出テスルヲ云

下地窓寸法

高サ存法二尺四寸八分横存法二尺三寸二分

此窓の下地敷居ト窓の敷居の上マテ二尺

此記書敷居の上より敷居より二尺トアリ

此る張紙紙のみあと紙敷居より

下地窓内のり立テ一尺八寸志きぬより一尺

此る上下の敷居きりて三十ト紙のてくる

此處ニ高サ存のり二尺二寸大くくりアリ

風炉先窓高サ存法一尺九寸巾一尺四寸五分

中柱中が
るし
出たり

裏居の上より七寸五分

そハ窓の下よりなるを云ふたものや

此風が先窓の所ニ二重釣柄あり釣柄

此所といぬよりありて終る所ハ中柱(臺目柱)

より風が先の角まで横竹又横木ヲ入せ其下々

を大くしと云ふ

連子窓弁法一尺七寸五分中二尺七寸六分

竹數六本障子二本也

此よりト窓の裏居の下ニ窓あり高廿

二尺一寸五分横一尺六寸此窓ハ脇小壁に

ここ一張八寸きんづつ張る向とも

此窓ハ色紙窓とも

茶立口一四方口とも

此高廿弁法五尺二寸中二尺

大鼓張引子内ハ六ツ目結子の方ハ五ツ目

此勝子口頬立鴨子法ハ地を張る候ふツカラ

ハ頬立の厚サニ準ト云ふ

頬立の脇壁腰張高廿二尺一寸又ハ二寸も湊紙

あつちる

床よりハおとくきとも四尺九寸天井高廿

七尺五寸

深サ二尺四寸中四尺七寸

此床（あし）おと（かき）あるは床の裏の事

おと（あし）おと（かき）掛と又（井）の事

七尺五寸（あし）は可（あし）

掛花生（折）釘高サ（あし）三尺二寸五分又三寸

めし（あし）打ち（あし）床の向の壁の花入釘（あし）

床の柱（あし）打ち（あし）花入釘（あし）

床の窓下地窓床の向塗（あし）より向窓（あし）


高十一尺六寸二分横一尺三寸何（あし）も舟法

此窓床（あし）より（あし）

通口（あし）口（あし）

舟法三尺八寸中二尺 大鼓張（あし）舟（あし）ハ七ツ目

外ハ六ツ目反右張

此三尺八寸ハ梯形の中央  此所（あし）カ

連子窓 舟法横長サ五尺七分天地中二尺

畳（あし）敷居（あし）一尺四寸六分窓の上ハ壁

竹數十五本打障子二本窓の下一尺四寸五分

の所（あし）もる

下地窓 一尺四寸八分横一尺七寸五分
きりきり 妻居のり 一尺五寸五分也此の
きりきり

かきひさき窓

隣りの上り舟法高サ二尺二寸横の内法二尺

此上、下地窓さる内の一尺八寸

右めくく大匠雛形大全畢

茶乃湯大全

斯書は茶道諸流に通ずるもれなる
も其源ハ表千流を以テ編述ス

數奇屋並座敷の事

數奇屋の畧圖

四畳半目 數奇屋此平圖

數奇屋ハ種々の構造あるを以テ悉く記さず爰ハ
一例を示すのみ

千家よりハ珠光ハ八畳紹臨ハ六畳利休より

四畳半ハ臺目の構ハ一畳半ハ向切より向切の構ハ

なり又妙喜庵より隅蓆始まるなり

右の圖を分ちて左に詳記す

古田織部公の床の内窓ハ地敷居より三尺

三寸五分上あり

窓の大きは専主の好しむ任す多くは長し下
地窓也外ノ方ニ障子を掛け折釘を下ニ二本上の
方ニ折つ向け脇ニ二本を障子をみすぶ一上よ
り障子を落し併めりものなり

床の窓を丸窓もする也是も下地窓也

○床の圖

床の舟天井ノ高サ七尺三寸六分 枕板ニテ廻り

鏡板ニする也 天井縁ト落掛の間一尺三寸

壁 落カケト床縁ト間四尺八寸

床縁ノ高ニ寸六分厚サ一寸六分

遠列公ノ窓ハ床地敷居ヨリ二尺七寸上ニアリ

専主ヨリ見テ右ノ床脇柱ハ栗ノサ三本左ノ

柱ハ赤松ノサクリ柱花ノ釘向壁三尺二寸ニナリ

床め室床と云ふあり 是ハ天井も壁めを塗

りまわり 隔ても丸く塗りたるも乃也

本式は床柱を立て兩脇八寸ツ壁を塗り

出し其塗尚め乃一方ハ壁めを塗り一方ハ

竹ちどを當めん打ものなり

片室と云ふ床あり 是ハ一方を壁めを塗り

出—なるまなり又、總射の一方二尺程脇へ
 寄せたるも何り
 床の舟板—床縁の上めくかぶせ下
 床縁は常の如く—切め板—たるし
 土床とて畳な—み縁もみ塗りて其上
 を残め張—たるあり是、古田錢了庵
 の好—なり花を入—何れもみをこぼし
 たるありまな土床をみゆるまはる
 下作の事也 (左、土床の床で
 元伯好—をす)

又曰
 釣花入ノ高
 低花入ノ因
 花ノ因リ様
 ナラズ
 釣花入ノ鎖
 鴨ノ頃迄ニ床
 天并道中ニ蛙
 カキヲ打鎖ヲ
 カケテリ易ヨリ
 床落カケテ真
 中内ノ方ヘ
 釘ヲ打ト
 ナリト云
 一説、宗易云
 落懸ヨリ鎖
 下ルテ客ヨリ
 見テ何レヨリ
 下ケタルヤ分
 明ナラズミテ

釣舟の花入釘ハ折釘—花入掛の釘程なり
 但—舟板の内真中、打ッ—
 此釘を舟外、打也舟ハ利休外ハ元伯又曰ク船ノ花入
 懸ケ候一尺桐三百ヶ條昔ハ床ノ真中、舟ヲ懸ル由
 古織殿床ノ落カケの舟、釘ヲ打テ懸ケラシ也云々
 宗旦望月集曰釣物ノ折釘古法ハ床前落懸ノ前ノ
 真中、折釘ヲ打テ舟ヲ釣テ下ケルナリ其後古織ハ舟ノ方
 打テ掛ケル様ニ成リ又利休ナドハ舟ニ打タル片ハ掛ケ所出
 所見ヘズ 繹リタル様ニテアミト被嫌ニナリ
 板敷の高サ夕、キ土より敷居の上端より二尺

氣味アシキ
心モチアリ
テ外ノ方ハカ
ケシトモ云ヘリ

九寸枘石の高サ一寸五分

此石の事 壁端りの下、石を並べる名の事、又ハ
踏石の事、是ノ壁端りの名也

總柱の太サ九分三寸迄とも但九太の面を付
けざるよしあり

總天井枕縁は物好次第なるも木にて
内は竹にて作り、毎年口切青竹に替るが
よし

天井はまともな煉けたるものを用ふる
あり

總鴨居の厚サ九分中ハ柱と同

○踏上の圖 此踏ノ字不知 躡躡此二字ヨシ但シ

踏此字ノ誤リナラン 踏イマダラツシムケル

踏り上り段の石の高サ三寸五分柱居の石高サ上り
一寸五分也

連子の外の方ハ伊豫簾を掛け
踏上りの上大連子也枘の方ハ二枚障子也

大窗の連子の外の方五本、七本竹を打也
唐紙を張る 躡丸方連子下マテ皆唐紙にて張

ツメル

會のときは西方を向て戸を因て置くなり
戸は外の方へ付け客ある所へ外つゝ置く也
躰口 鴨居ノ厚廿九分上ノ方ハ裏居也
同高廿二尺二寸巾二尺
板巾 戸尾ノ方四寸中板七寸建角八寸

中柱並風爐前き窓の圖

袋は元來釘に掛けさるものなり

石列公ヶ條中、詳なり 又茶道全書、夜ノ手前、
曲り柱ノ釘に袋ヲ掛不申夜ノ手燭ノ烟カ、ル故棚ニ上カ

脇に置く

中柱の釘は羽帚掛の釘故袋は建水の前後に置くを
よゝゝす近れとも拜領杯の茶入袋は下に置くも
如何くも何ハ羽帚掛の釘に掛け又ハ板に置
くももあり

袋掛ヶ釘ハ引竹の上ヨリ三寸六上ノ柱ノキワ中ニ打
也釘 四下 引竹とあるは横竹ノ

引竹ノ下明又ル平二尺二寸竹ノ厚廿九分巾
一寸八分 是ノ厚サ巾ハ横竹ヲ木ニ三又ル片ノナラシ
風炉前窓長サ一尺八寸八分巾一尺五寸

窓ノ敷居ノ下七寸九分此所ヲ反古ニテ張ル
大目ノ高サ六尺二寸(色紙マトノ方)也
五寸上ケテ六尺七寸ニシテ片ハニスル

此五寸上ケテト云ハ臺目ノ片天井ト窓ノ方ノ天井ノ高サ
ノ下ニモノナランカケ込ノ下

窓ノ外ノ方ハ常ハ簾ヲ掛ケ夜會ニハ雨戸ヲカケ
ベシ障子半分明ケサシ

窓ノ煩立竹

上下釣棚の圖 二重タナの下

上下の釣棚桐板ニテ白木也板ノ厚サ六分

引竹ヨリ上ハ壁棚の隅引竹の向フ壁窓角ハ
壁塗り廻 風が吹く方ハ柱ヲ四分一ヲ見ル

此訣實地を見て知るべし

上の棚板長一尺四寸巾一尺五分

下の棚板長一尺巾九寸

上下の棚板壁ハ五分塗り込ムなり

上下の棚の間六寸五分

下の棚は引竹の上へ乗リたるも乃也

上の釣木ハ竹小口五分竹ノ景のよきと角コ

青竹ナリ板の角ハ竹を仕込ム

下の棚 釣木六分四分

此釣木ハ板の節カ又舟へ少ツ入ルカ

も〜はみ上下とも五分ノ打付ハ三三ナリ

中柱と向と板畳一寸八分此板畳と云ふ大目

夏ノ右の所中柱の先ノ所へ入ル板ナリ

而〜向も縁も皆此ナリ詰ナリ

色紙窓の圖

臺目の内の腰張の高廿七寸五分但窓もきこき
は八寸二分とす

下地窓の一本段ハ太キ女のを由二本し

は少し細く三四本は次第に細き上段を用
ゆ但四本より多くは用ゆる事な

上の連子窓 鴨居敷居とも九分ツ一通

頬立厚九分巾一寸四分

厚サ四分巾九分の木を窗真中

此高廿二尺一寸八分横二尺三寸一分

外より五本竹を打ッ又ハ木あり

下窓葎の子なり 地敷居の上塗廻窓也

高サ一尺八寸二分巾一尺四寸六分廻りをハナリ

み塗り角々を少明丸くする也

窓の明け所上窓は風が之の隅より吹く
下の窓は中央め吹くまじり加筆ス
下の窓の両脇の壁は一張の壁

及古ばり 守二方のこぼり

障子 何れも一本ツカ障子堅横組子四本の組子二分

惣臺目の高サ六尺二寸 前條通り

朱下の窓前云通り 四寸五分め樋をほり出す

とあり 樋ハ溝ク

突上ケ窓の圖

突上ケ等木二本竹二本

長廿二尺六寸 厚廿五分ミヨミ四分

ツカギ長一寸四分カギ曲リノ処ニテ六分

長廿一尺九寸五分

右木の方なり

長廿一尺差渡六分長四寸六分節一ツ

一ツミニツ 何れも上より一寸七分下より三ツ

屋根裏の時上五寸上げ六尺七寸こりて

勾配を竹片端ぬするなり竹榫木

後と前とも五本打女竹二本並へて

竹の皮の所を切廻し 榫木の間ぬ立て一本

入る藤にてかく檜木の上を両方より打當り
而して其上に赤板母て屋根裏を打也
葺葺の時ハくわんを打つ繩を舟けてぬい
ぶくを免るなり

障子の紙と蠟を引き上め雨戸を杖で
突き上る

突上ケ窓の戸の長サ二尺四寸中二尺二寸かまも
見角五分見込ミ六分なり
戸も障子も上へ引くなり

圖ハ別書に出ス茲ニ畧ス

茶道口の圖 茶點口又勝手口

柱勝手の方ニテ六尺二寸

客角の方六尺二寸ニ五寸高く片端とする

茶道口高サ五尺二寸中二尺二寸

鴨居厚サ一寸一分下の方へ見る面二寸六分

此下の方とあるは下より見ることを
いふなり見障子の巾のさるなり

頬立厚サ一寸内ノ見ハ面二寸六分

敷居ノ巾三寸二分一筋桶十リ 桶ハミンク

障子下は一筵美濃紙ニテ張り上ハ面計り

反古にて張ルナリ

切引手内の方七ツ目勝手の方六ツ目切込

但反古の文字の切サレ様ニ切り込ム

大目の畳巾 三尺一寸五分

頬立の脇の壁こゝ張反古張なり

容弁ノ方ナリ

火燈口の圖

火燈口は利休の好こ也 瓦燈口も通口の本

四畳半は通口な〜 二畳半 三畳半など

釜燐白
通口又リマ
ワシニ限ル
茶ノ湯ノセツ
葉子ノ盆
通口ノ湯
通口ノ湯
八畳目切
点茶ノセツ
貴人ノ前
行テ急ナリ

へは通口を設くるこゝ

太閤(豊臣秀吉公ヲサシテ)小田原滞陣の時利休

點茶を命したるとき利休の勝手口を付テ

んとして段を以て通口を付テ〜と云ふ

も〜火燈口を設けたると云ふ但火燈口の高

サ十三歳の童子の通ふ小間一む程が〜

高サ六尺二寸の壁巾三尺一寸五分の處

火燈口高サ三尺八寸五分敷居の上ニ巾二尺

外ノ方ハ八分ツ、裏表トモ紙ニテ張ル

上ノ丸ミノ所小舞ニテハ成リニシキ故ニ板ニテ寸法

用向ナド
勝手口ヨリ
申上ガタキガ
二居上勝手
口ノ外ニ通
口ヲ明ナリ
夫ニ先口ト
云ナリ先口
ノ出入スル
ト云意也

ヲ定メテ切メユマイヲ付ル

舟に障子表裏より美濃紙を張り上げ
厚奉書より張るべし

*舟よりの舟外の
ちんばねに障子を入るるなり*

切引手は表の方は下より五ツ目勝りの方
は六ツ目切り込なり

潜口の圖

潜口の上窓高サ一尺五寸中二尺 下地窓

織部は此窓を下懸懸に付け外の方伊豫

の簾をかけたるより是も物見の窓と云也

潜り長ケ二尺五寸

*葎のヌクシヲ多く用申小座敷は
及舟廣間ヨシガキ也*

此潜りは小座敷へ入ル 踊上りの事カ

土より一尺九寸上ケテ潜の敷居アリ

石高サ九寸 *此石ノ上ヨリ 敷居上端ハ一尺ナリ*

凡そ窓の外には簾を掛け舟に障子也茶乃湯
の時は外の簾を取り内側の障子討り夜話
の節は窓に障子を閉め其他の窓に戸を因
め曉には残らず戸を開めるものとす又突上
窓ハ夜他 曉も戸を下けるなり

*突上
窓全*

此茶乃湯の付、外の簾をとりて内の障子斗
りし事、前段客入と後入茶を喫む時と
またたれあると掛けたる候とある事なり
又夜咄し、曉も窓戸をぬす用ゆるもの
あれども、左、非ず茶會之三曉の會の款を見て
知るべし

茶乃湯の時、外乃簾を取りて内の障子計
りし為も、夏ハ見計り障子も取り外し
成るべく涼しくすべし (簾計り)

千表派茶湯刻限作法

戸の類ハ何れも、びりあめさるべし

突場窓簾ハ半分折懸てもよし、又四ツ折でも
懸る、又皆懸りて障子を少し明てもよし
中立よりハ障子斗りし事、簾ハ元金
但し、くくくく、連子戸障子二枚の内障子
の方、簾を取りてもよし、尤中立よりハ二枚
共障子、もよし、春ハ風爐の対の如し
茶點て、魚りた子頃、勝もよし、人を遣し
窓のよし、これをも、事あり、又耳に
を、迎め、も、ゆ、り、簾を巻取るよし

又伊豫簾（石室云小座敷ハ皮付の葎簾廣間ハ皮
ムキムキガキ葎ノ簾白竹ハ勿論伊豫竹ノ簾ニテモヨシ）は
座に着く前より窓毎に掛け置く座中餘り
明り過る時は簾しそ明りの能き程に加减
もせ簾又ハ戸めく爲す中立後は明るまじ
よし又座中余り暗き時は一ヶ所をも
簾を外つし置くべし夏ハ窓毎の障子ヲ
閉めざる故簾を掛け置く夏の晝會ふは
時々簾を水に浸しそ乾くまで

取りて掛け置くこととあり

茶道聞書。小座敷の代戸は第一空座の片に立之を
為なり然し共客ある時朝日暮日のきし
方、及び必ず代戸を濕しそ障子と立代りあり
但し濕しそ立つる其断ハ前の所に出たり
前の所ハ本たりとあるに依るゝなり
茶湯座敷莊嚴之支掃除ノハ不及言。凡ハ先ノ窓風が
股等ノマドハ代戸ヲ濕シテ多分々テ置候ナリ此代戸ヲミテ候
ハハ宗易居士が頃マテハナカリシニ古織ヨリ日ゾリタル戸ヲ濕
テ立時ノ間、合セ候ヲ見テ夫ヨリ世間押並ニ今以濕之來リ

私云夜出
ノキトモ
ケ所障子
ヨリ見當
トナル處

世あるト解
ハレシクア
サモ熱

候也又雨中カ暮ニ及ブ折ニ障子ニテモ其マ、夕テ置ナリ
座中餘リ明ハ過ラハ座敷モ道具モ淺マ見ヘテ亭主所作
マテ不宜ユハ明ルノ多少ヲ能々分別シテ明ルノ方ハ大概ノ片ハ
代戸ヲ用ヒヨク心付クベキ也云々

瓦爐向又瓦炉ワキノ窓ハ一日ノサシ込ムトナクテモ多分代戸
ヲ夕テ置クナリ其断如何トナシハ道具置ノ存明ルズヤハ亭主ノ
所作モアラワク見ヘテ又道具等モ淺マ見ヘ候トテ代戸ヲ
夕テ候ナリ。夜候ノ窓ハ障子ニテハ
代戸をたすとも也何れも障子ト
代戸をたすとも。風爐の茶の湯の付ハ世あるサモ

熱事ノ目付ハ障子めテ、
又中立以後道を冬ノ内代戸を正立立候候
美ノ右ニ退いたる戸も又改退
たる窓。窓も掛たる座中
飾りもさきとて座中おちたか
とのなり、あま少、暗くも
第一明の為、第二座敷の様子又向の見當能
作為次第、幾ツも所見合アケ
窓毎の障子も露物か、直ニ見
也、見當も方志、四季

もみ懸けの事を好む也去しも百天又は
教ふなきを教ふも座中暗きときたる
簾皆
もぐりもるもあり又濃茶の付
懸て濃茶
懸り出づき時分も戸路の
ものへ
窺ひし掛
長たふ
簾もを明り
杖子窓敷
みより
一二箇所も外し
も事もあり
濃茶を飲
む
対座中の暗きは
よか
明るく
た
杖に
簾は伊豫
簾を青麻
とて
縮直
懸る
前之
濕して
懸る
なり
但濃茶
懸る
出
し
し
時
と
ても
風爐
先の
窓
風が

絢の
魚の
す
た
れ
は
外
さ
さ
る
なり
又
像
空
曇
座
中
暗
く
成
たり
或
ハ
風
炉
の
片
暑
サ
き
ひ
し
く
時
分
は
料
理
出
し
を
折
り
た
必ず
一
入
熱
く
なり
と
な
ぬ
自然
窓
より
障
子
を
開
ラ
か
る
事
あり
然
は
何
時
も
も
先
上
客
の
方
の
窓
より
簾
を
は
ぐ
り
客
の
退
屈
なき
様
に
侍
る
事
肝
要
なり
縦
ひ
あ
り
障
子
用
か
る
事
た
く
も
其
時
日
忘
し
懸
け
も
ぐ
り
油
断
た
か
る
べ
し

又活法、曰
床天井軸股
ノ方ハ燈カギ
ホツト是ハ
諸莊ノ作意
ヨリ出テナリ
トナリ

小座敷くわに床入天井板に花生を釣るとき其釘
を打ッめたに床乃々中又ハ床を二ツ割其ま
中ニ打ッへ

茶道坐躰床の控鍵床の天井三ツ割一ツ分見込の方奥
行ハ真中鍵先ハ床ニ向ひて花鎖りを左の手より懸
るや、すすむ之但一上座床下座床とも

石列三首ヶ條、曰、船の花入掛る事昔は床の真中ニ釘ヲ
掛けたるを古織居床の落し掛ケの内ニ釘を
打て懸けられしなり真中ニ打釘ハ真中ハ二寸
舟ハ入きて打折釘但し控釘とも云のまか又折釘ハあるハ

折釘と昔ニ打リ洋釣香爐を此釘ニ懸る事ハ
あり香炉を釣り高サ口傳香炉高サ低キ方をし
花ハ同様ニ不成様いたま落し懸けハ打釘は下
端より六分程上げて打也鎖りハ落しかけ
九分下る船を釣りて床前三尺隔り船中の水
不見様、釣り是ハ蔓もの、花を入るも高サハ
又下けて釣り是ハ口傳石藁云花の事ハ
花の釣る事一茲唯天井の釘の割床の事又床の
割様の事ハ

敷奇屋の落し掛けの花入の釘ハ釣香爐也

香を炷きるとき其俵炷き捨て置るもよし

敷きの屋の腰張ハ美濃紙高廿八寸亦八寸五分
みもすくまじり 鼠紙ハ一尺八寸とす

翠雲日氣紙とあるは湊紙の事なり

一畳半ノ小座敷の事

爐の向の小板二寸二分半但六尺三寸の事なり
は一寸七分の小板なり

花月集ハ小板ハ松板 長一尺四寸高一寸七分中二寸二分
是ハ向板ナミノ小板 又向板ハ片ハ巾一寸八分

本文六尺三寸ノ畳半ハ八寸五分
ハ向板タミミ
入ラガムラ云々
トナラシ
向板タミミ
アル片ハ二寸
二分半
本文誤リナシ
六尺三寸ノタミミハ花月集ノ如キニテ如何

向板 長三尺一寸五分高月上巾一尺四寸七分

石菴云此寸法如何可考一尺四寸。五重ナラン

但ニ向板ヲ板畳ト云方ヨロシキカ 尤向板ト向ノ畳板ト
木ヲ遠てをふ

又日夕宗偏著利休茶道具圖繪ニ一畳半圍炉裏

先板畳ノ幅二寸一分横竹ノ節四ツトアリ

此一畳半平圖

石菴云朱書ヲ墨ニテ

北ニ床アリ此床 勝手口中二尺八分床柱二寸八分
其餘床ナリ 西一畳敷 客居ノ後ニ窓アリ
南ニズリロアリ 戸アト西ニ柱ヲ立テ引ク

此南クワリの東、半畳ハ臺目畳ニシテ其向切ノ炉ノ先
、風ガ先窓アリ 又東測、窓アリ
本圖を左に詳解す

北障子の引手内ハ七ツ目勝手ハ七ツ目なり
又ル木カケニ寸一分 石葺云北ノ床ツキヨリ片ヲ

タシナリ ○床柱ニ寸八分花釘ヲトシカケヨリ一尺寸下ケ
床天井畳ヨリ六尺二寸鏡天井ナリ

天井大輪一寸五分見込八分
落懸トカマ千間四尺九寸
カマ千枚丸太高二寸五分巾一寸四分

四畳半ナリ
床掛物掛
ケ釘四畳半
ト全シ
花入カケ折釘
高廿五寸

落カケ厚廿一寸巾二寸二分

上床ノ内畳巾(長サ)四尺一寸四分深サ二尺四寸
但シ六尺三寸畳ノ片ハ勝手口残ニテ跡ハ床ニスル

ナリ 石葺云此但書依テ勅考スベシ

勝手口ノ高廿五尺七分巾二尺八分

四尺三寸 勝手口此取ハカマ腰ニメ火燈口

異ナリ

茶道筵躰、勝手口ノ事 ホタテ口ト火燈台ハ勝手口
め限了 火燈口スリマニシテ掃口通ひ口ト
分り 又席ニヨリテ釣襖モあり古風め

引通ひ襖より猪の口と通ひ口と兼用するに
あり、塚壇寺利休の二疊を志目あり此
引通ひより、テク子はきききぬ席より
通ひ口ぬり也、一限る云々

西ノ
方面

窓敷居の高サ二尺五寸七分 此窓ハ西ノ方ノ窓ナラン

障子堅 堅二尺四寸二分 横二尺一寸八分

此障子トアルハマトの廣サナラン 窓障子ノ寸法可考

障子かまのち三分、四分、組子二分、三分

敷居鴨居見ユミ、一寸見付八分

窓の外、竹の間柱あり

日く、葎敷ハ堅ハ十二通横十四通ナリ

此窓床ツキ迄の間ノ壁一尺三寸

マトノ下敷居ト敷居ノ間押通ハ腰張

此ノ立舟ケ竹

南

一潜り舟法高サ二尺 横二尺 (三齋公ニ出タリ)

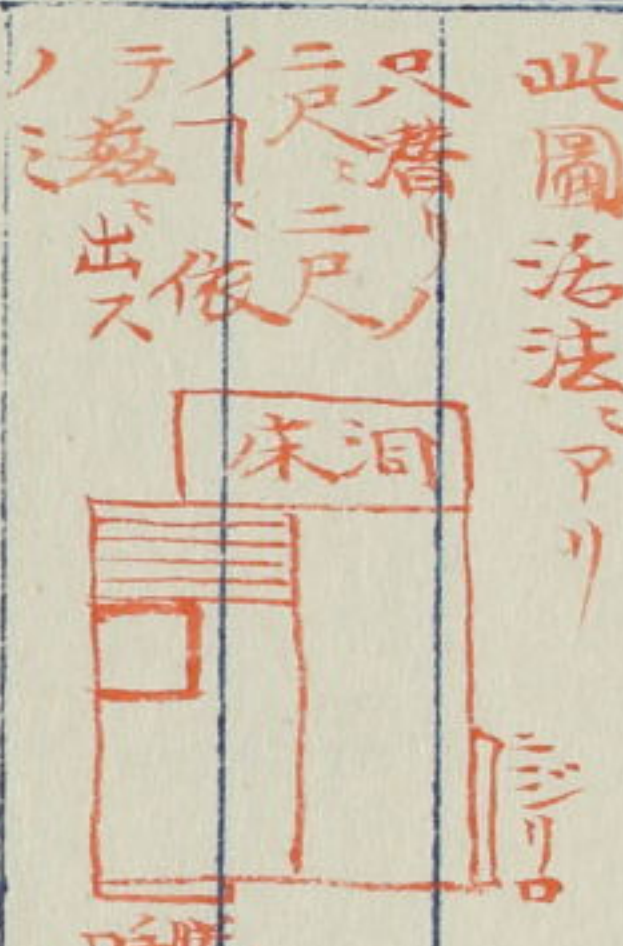
此高サ二尺トアルハ如何 一尾伊織、スキヤノ寸法ニ日

二疊一疊半ハ潜り高サ三尺五寸中三尺、スベシ大秘

事也云々 宗偏傳利休ノ法ニ日、高サ二尺二寸五分

一尾伊織ハ
細三齋門

巾一尺九寸五分、日二疊半、テ日上又三齋公門、伊織ノ書
 利休仕置かき、一須貴屋の寸法、日二疊敷又一疊
 半、ちども、は、潜り三尺四方、明る云々



此の圖躰より如圖なるは勝も口二枚障子より
 又客入口を二枚障子トすも、は勝も口一枚引はし
 兎角せよ、き、座敷ハ入口廣きより、とのり也

二潜りか、ちもち七分、五分、目板七分、さ、八、六分、四方

三窓、竪二尺三寸五分、横一尺七寸六分

四窓、障子組子二分、四分、か、ちもち四分、五分

五、裏居、鴨居見込二寸、匙舟八分

六、軒の高サ、拵下、端より石、ちもち六尺六寸六分

鴨居八分見込、二寸七分

南表ノ方

窓ノ葎、竪十四通、横九通

窓ノ外間柱竹アリ

シ、リノ隅柱太サ二寸五分

引手八四分、五分

七 伸か高サ一尺五寸八分

八 狭ミ敷居六分面一寸六分

九 裏居ノ幅二寸三分ミソ四分半

中柱の圖及ヒ風爐先窓釣棚之事

中柱の工ガミヨリ横竹を付る

中柱袖壁 横竹ノ上ノ所ノ壁ノ下

横竹ノ下半分立テ腰壁アリ

此壁横中一尺四寸三分立ハ横竹ノ高サナリ

腰張八寸五分

中柱廻リ 五寸八分女松ノ曲ミ柱ナリ

袋裏掛ノ釘横竹ノ下端ヨリ 三寸五分半

上ニ打ッ

横竹高サ二尺一寸五分

風炉先窓 一尺五寸横一尺二寸窓ノ外ニ竹ノ間柱

あり

一重釣棚高サ置ヨリ 二尺七寸棚板幅一尺

四分深サ八寸八分厚サ四分はヨリ 是モ六分

棚釣竹 角カラ三分 窓下腰張

釣棚ノ隅塗廻

障子ヲシメテ立附ハ竹

窓の脇ノ壁此間一尺

窓の敷居の高サ二尺四寸九分

此地敷居より窓の敷居迄カ此高サ風が之の

窓より下は高さなり如何是ハ潜りの上ノ窓

なり又ハ東ノ方ノ窓カ

窓障子堅二尺四寸九分横二尺五分

此障子前ニ云ふ如くも何れも右ニ云ふ如

障子框四分五分紐子五分四分

敷居鴨居七分半見込一寸二分

窓の葎敷横十四通堅十通也

外、竹間柱あり

屋根ハ一枚屋根なり、檜木五本こま、存五

十四通、折外軒四通、屋根押さ三通、

幅一尺四寸小舞、けらば片庇三尺勾配也

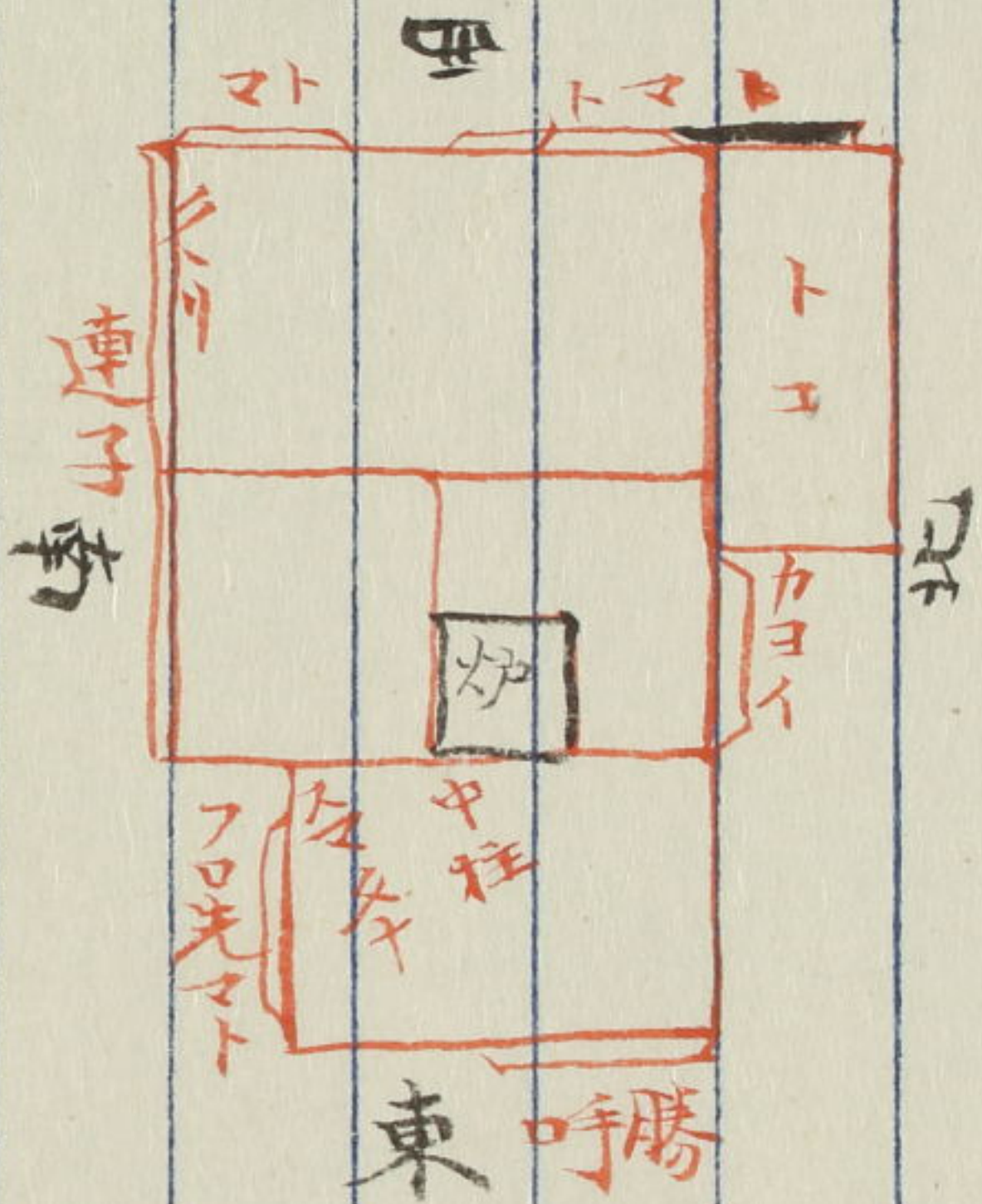
東測存ヨリ見タル圖窓アリ

此間一尺二寸四分是ハ窓ノ立附ヨリ南ノ壁

腰張り、葎敷カミ八寸五分

是ハ窓ノ下ノユミバリナリ

二畳半 此二畳半とあるも二畳半畳目
 二畳目には炉を切ラジ二畳目炉を切る圖
 なり 故に本圖を茲に記ス



本圖を左に詳解す

天井の高廿五尺九寸五分

通口高廿三尺九寸同巾一尺九寸五分

床の舟畳巾四尺一寸五分同深廿二尺四寸

床天井高廿畳一尺六寸二分

日天井大輪一寸五分

日落懸下床框子間四尺八寸 二寸二分 二寸二分 カケ厚廿一寸五分

日框高廿二寸六分巾一寸五分

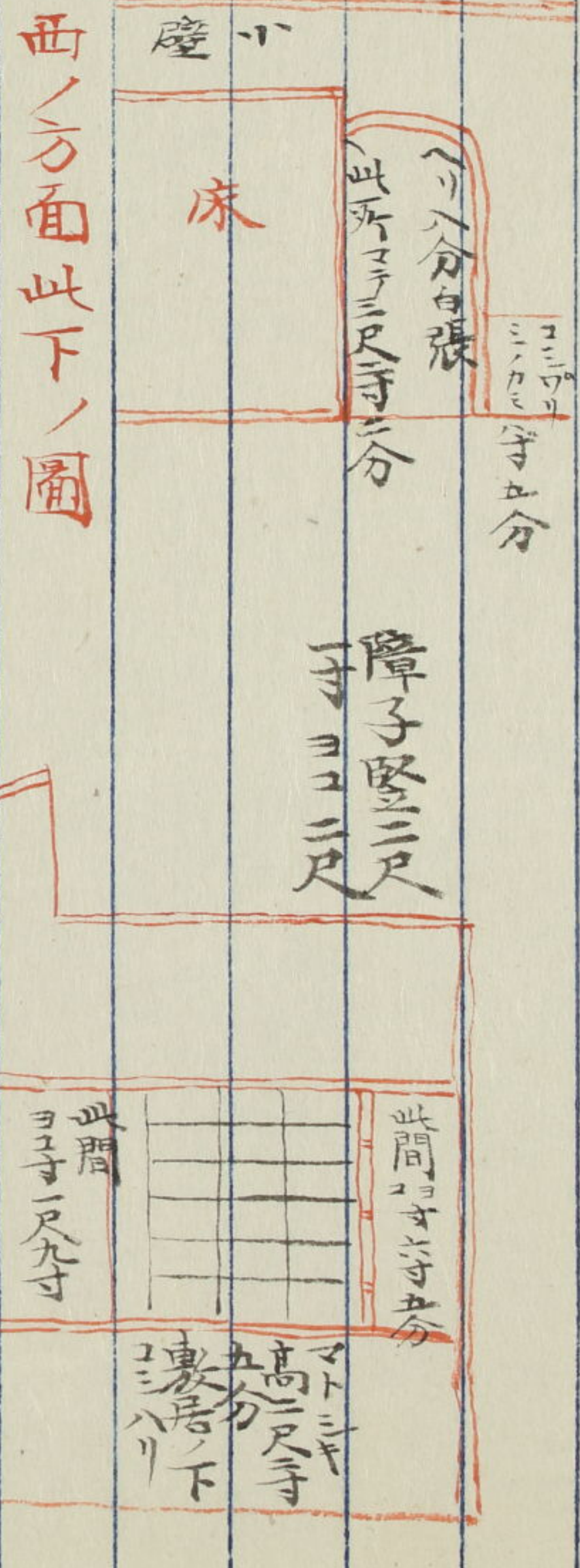
花入掛折釘高廿三尺六寸五分 此向壁

通口障子組子堅二本横九本

同引手ハ内五ツ目勝手の方ハ六ツ目切也

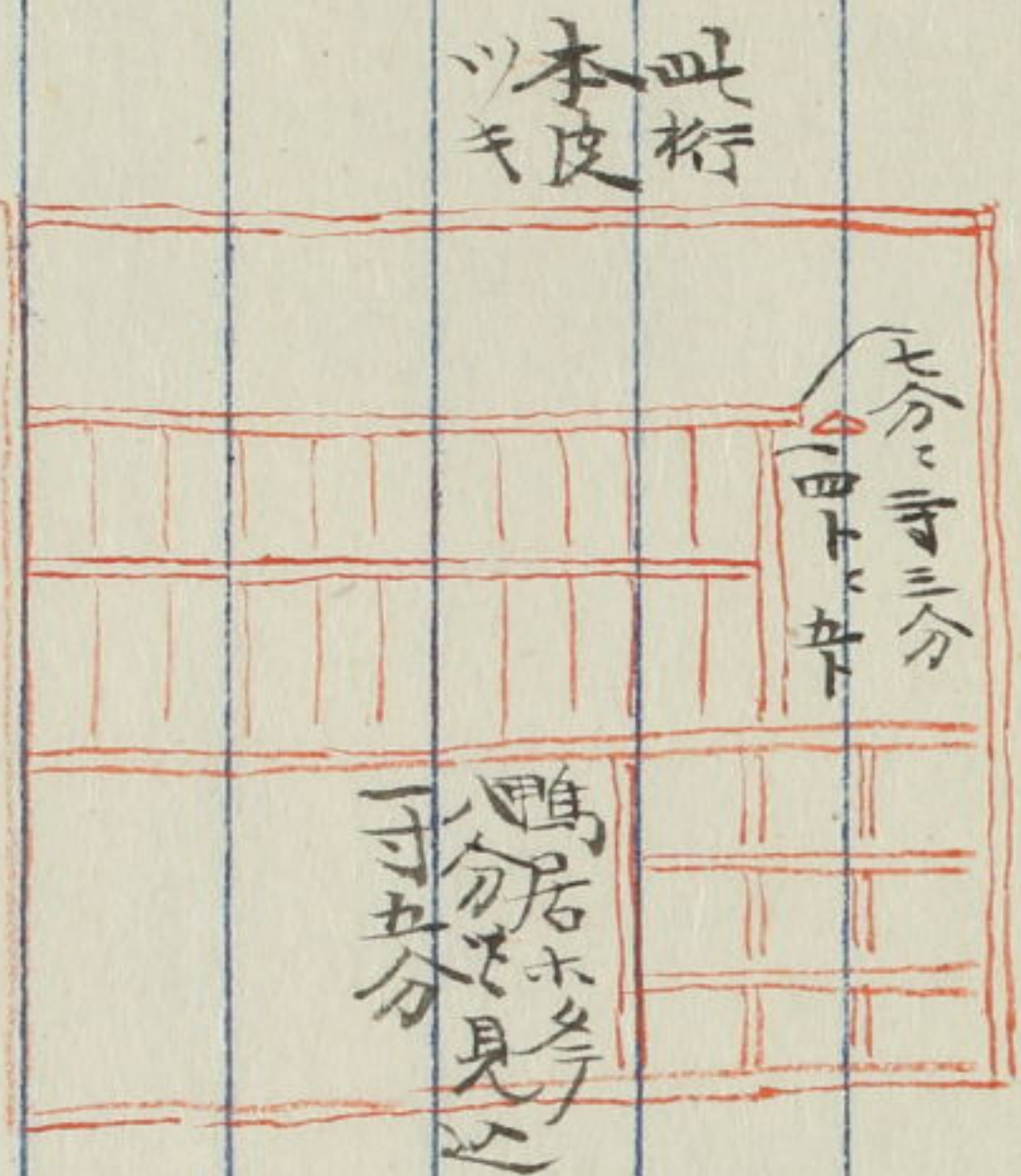
北の方面

天井大輪松皮付一尺八分此一尺トアルハ一寸ナラニ



西の方面此下ノ圖

南ノ方面連子窓下ノ潜リ口



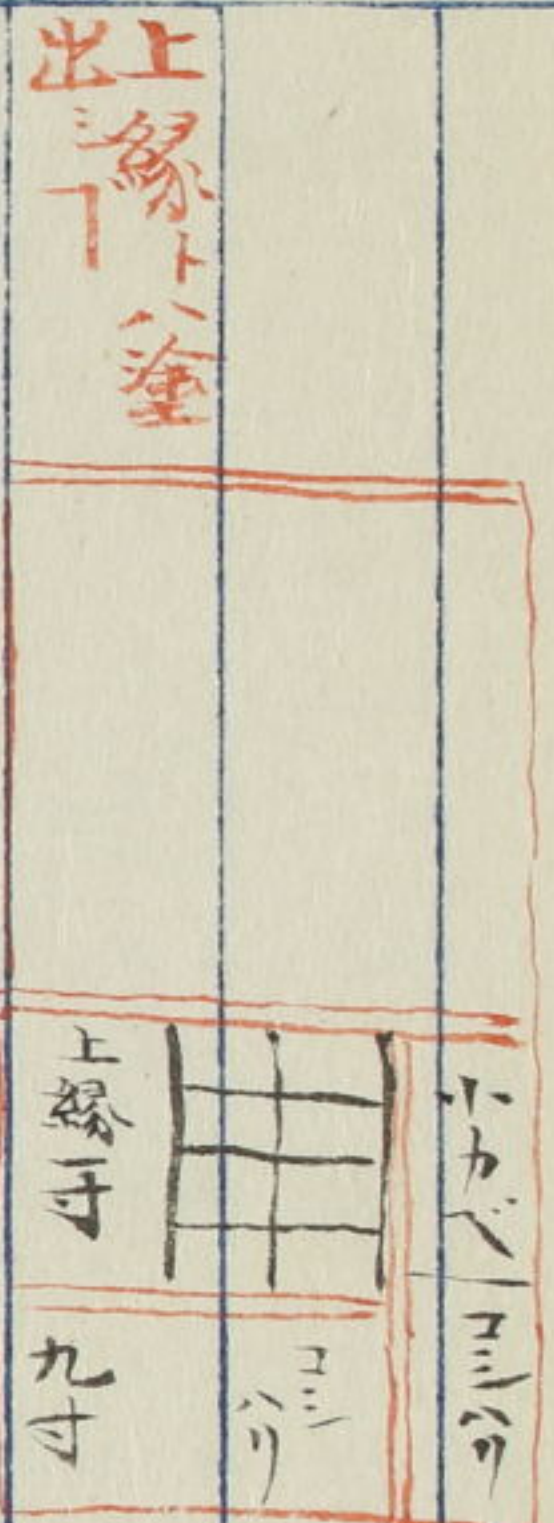
地敷居ヨリ桁ノ下端マテ四尺九寸五分
潜リ存法堅二尺二寸七分横二尺五寸
此ヨコ二尺五寸可考

巾ノ高サ一尺五寸五分

連子存法堅二尺横四尺七寸五分
竹十本打

連子の障子二枚 堅組子二本横四本ヨリ三分四分
月柜四分五分

同南風炉先の方



瓦炉先窓障子 竪二尺二寸三分
横一尺三寸

敷居ノ高サ五寸六分此五寸六分ト

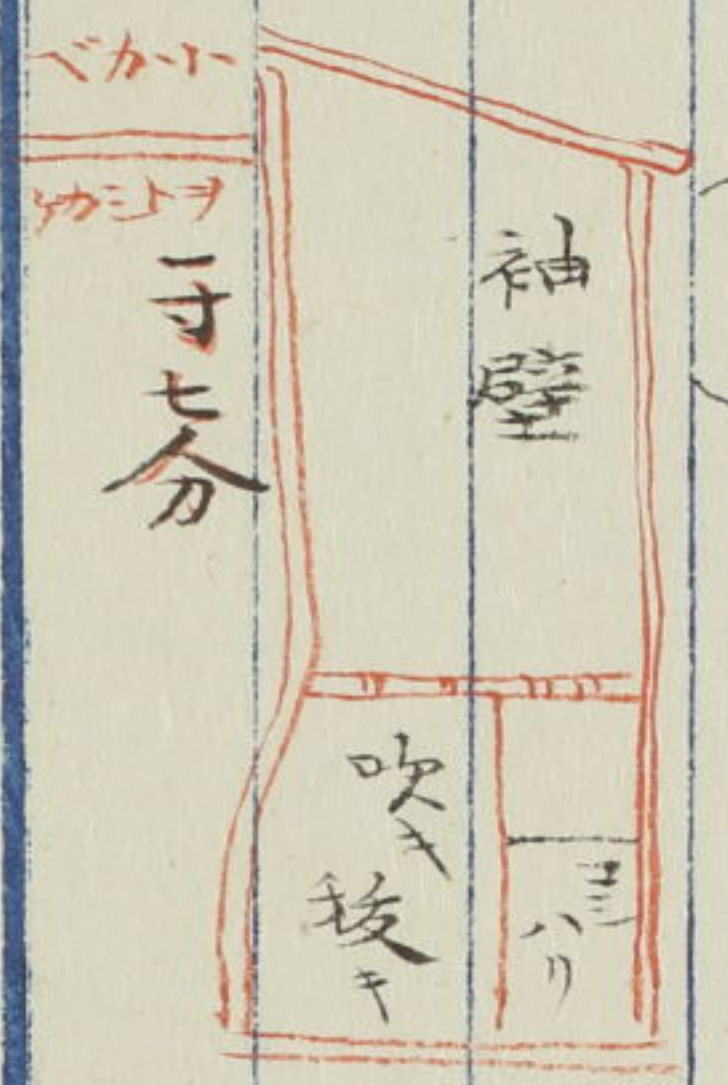
アレ尺上九寸トアレバ可考

敷居鴨居七分

マト障子カマ千四分五分組子三分二分半

茲ニ日窓の高サ横ノ寸法ナリ

釣棚 (一重) の寸法ハ一疊半ニ同シ



中柱の枓天井高サ五尺四寸九分

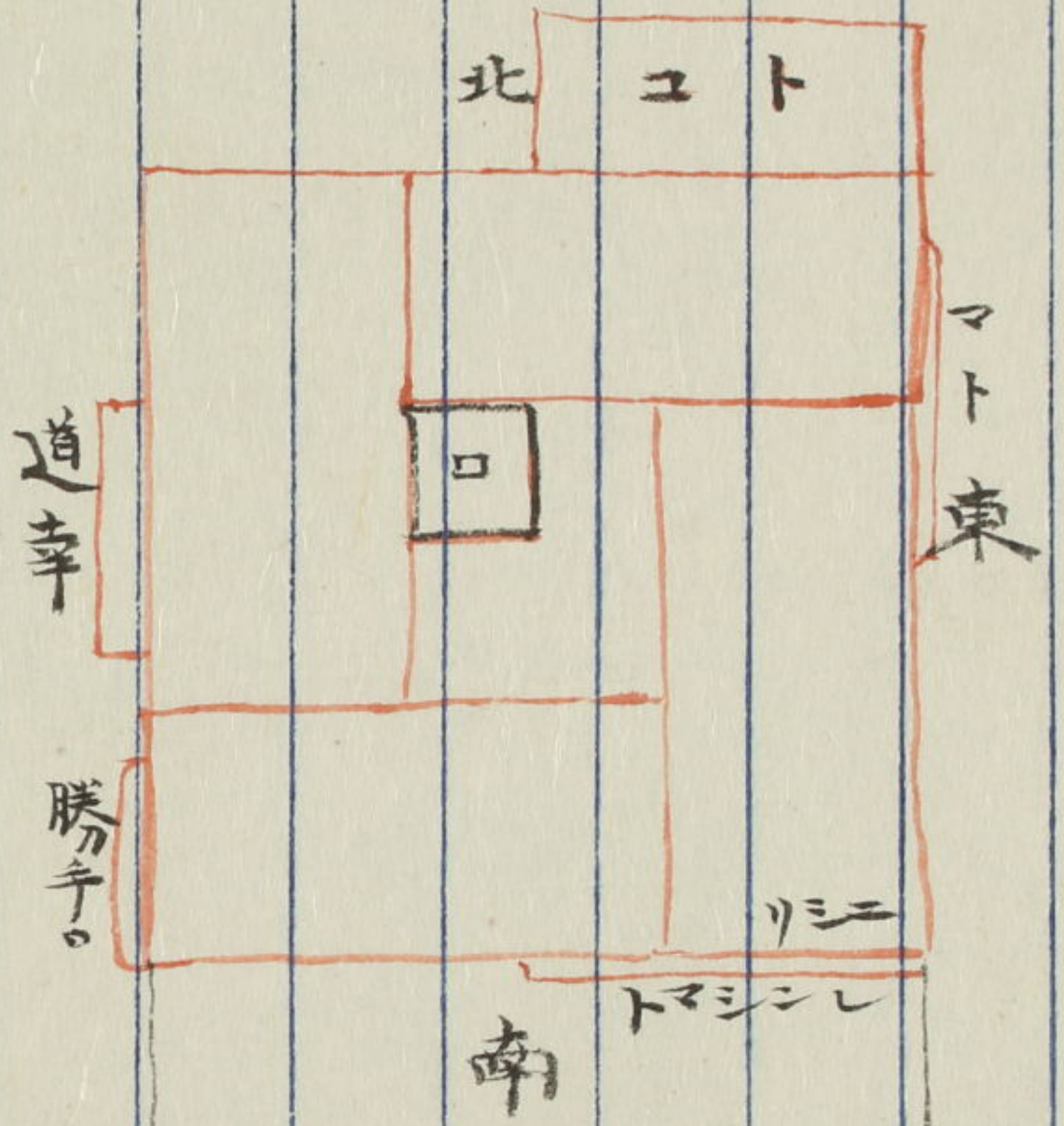
袋掛釘高サ二尺九寸

横竹ノ高サ二尺五寸五分

宗旦好四疊半平繪圖



宗旦好四畳半



本圖を左に詳解ス 此建テ圖

四畳半の

| | | | | | |
|--|--|----------------------------------|-----------------------------|-----------------|---------------------|
| 掛物カケ竹釘長廿九分 石翳五九分 出ナリ長廿九分 テニ分打込九分 天井高廿四寸五分 尺八寸七分 | 北内 床内畳ニテ横巾四尺二寸 七分深サ二尺四寸 床天井八天井ヨリ畳マテ 六尺二寸床天井大輪一尺四分 見ヨミ八分 | 北ノ床脇壁 北ノ床脇壁 北ノ床脇壁 北ノ床脇壁 | 小奇 花簾折高廿三尺 此タテ高ヨリ一尺寸下 | 奇 此タテ高ヨリ一尺寸下 | カマキの高廿二寸五分 巾一尺五分 |
| 落掛ケト床カマキの間四尺 八寸二分落カケ厚サ九分 巾二寸一分 | 柱塗出 下ヨリ四尺三寸塗リ廻 | 角柱折釘高廿九尺 | 三ノカミ 白カミ | | |

南の軒ステ柱

三ツリ前角

窓敷居高廿一尺

八寸九分

腰

襖色紙敷居鴨居見付七分半

張

此間一尺九寸五分

トコ角

此間障子立附下着

東の窓

窓障子堅二尺二寸五分
五分五厘東寄五分
窓縁一寸(下)有
テ上(十三)

地敷居ヨリ折上マテ

五尺二寸三分

六寸高サ内法二尺二寸七分
分横中柱迄一尺九寸五分
鴨居七分見付
裏居ノ厚サ七分半

南の窓

勝手ロノ方

南の方壁

腰壁

七ツカラ

此間ササ

ヨコサシ

ホタテ

替り内法高廿二尺二寸五分
横内サリ二尺一寸

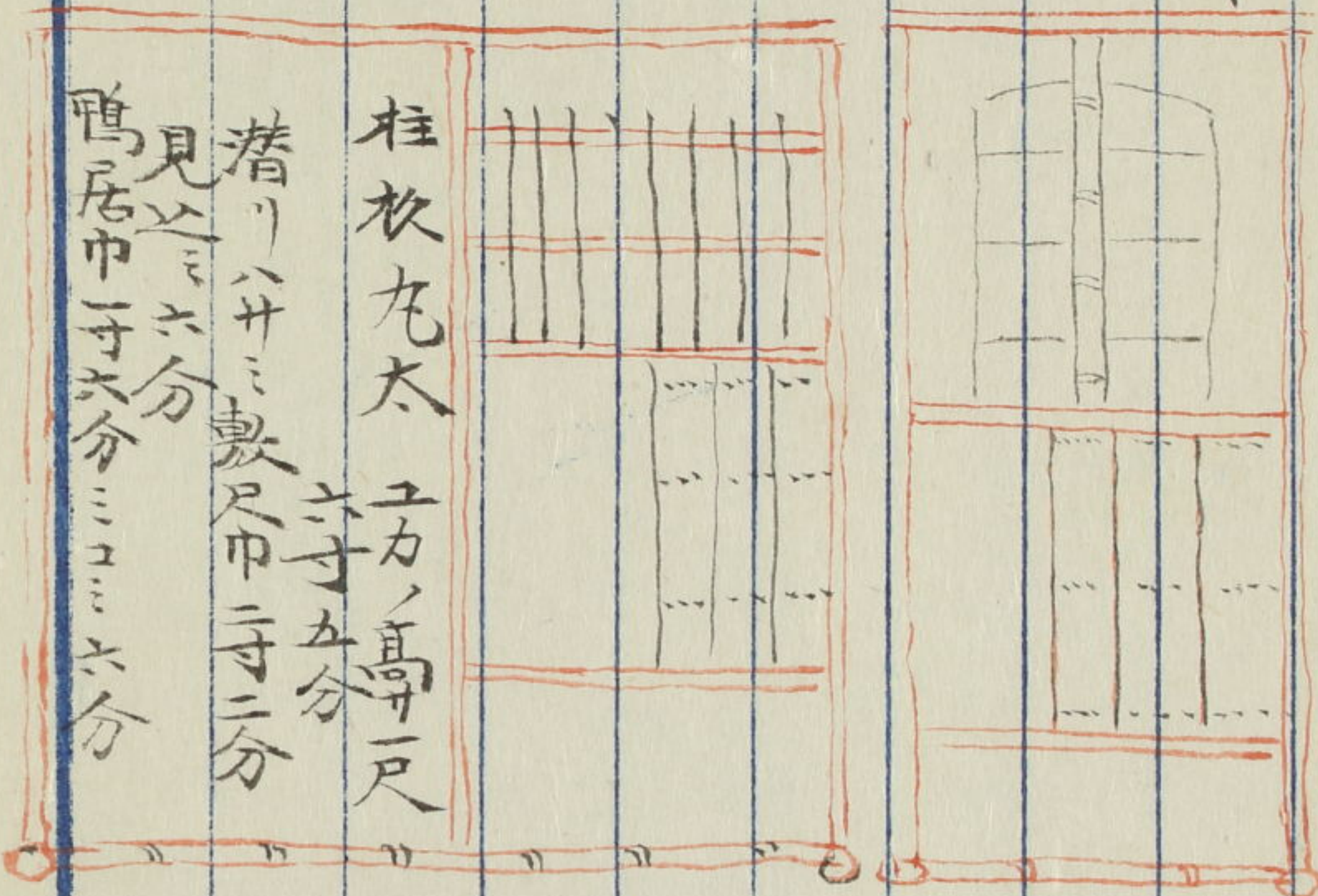
クサリ戸カマチ五分半
見ヨミ八分目イタヒト半

厚一分
サシ五分半見込五分

クサリ頬立七分半二寸

下圖ノ如キ
モアリ
寸法全シ

南ノ外



柱枚九太

ユカノ高九尺
六寸五分

潜リ八升ニ敷尺巾二寸二分

見込ニ六分

鴨居巾二寸六分ニユミ六分

二尺寸七ト

道幸はふたてより勝手口

隅の柱迄六尺五寸
此寸法可考

道幸存法横二尺一寸九分

高サ一尺九寸八分

深サ一尺三寸

東存

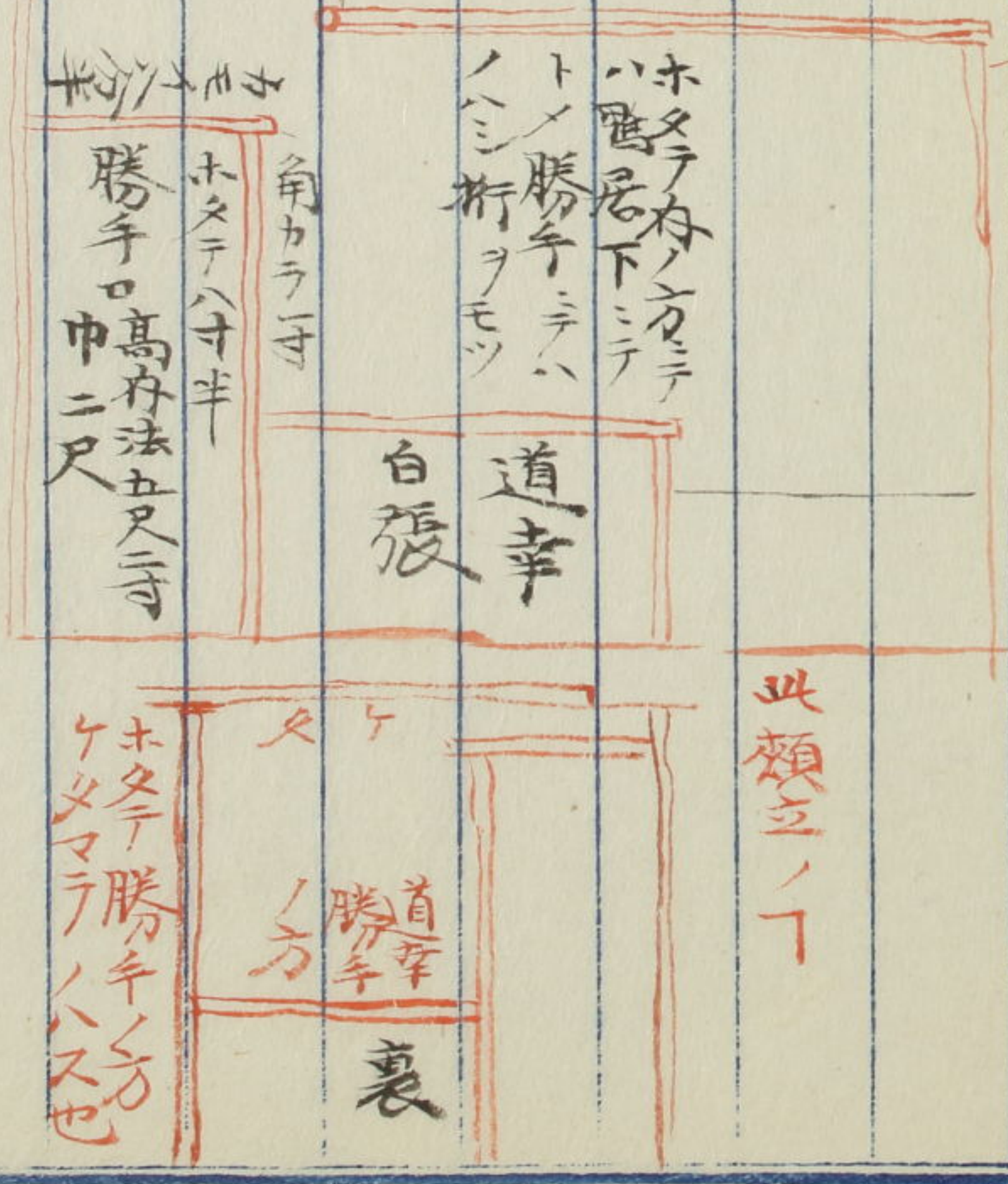
棚ノ高サ一尺二寸六分

巾九寸六分板ノ厚三分

棚持七木三分半四方棚

板ヨリ二分入テ打ッ隅四分一

三分半四方



此類五ノ一

ホタテ存ノ方ニテ
ハ鴨居下ニテ
トノ勝手ニテハ
ノハニ拵ヲモツ

道幸
白張

道幸
勝手
裏

角カラ一寸
ホタテ八寸半
勝手口高存法五尺三寸
巾二尺

ホタテ勝手ノ方
ケタマテハノハス也

右ノ方脇ニ竹釘ヲ打ツ下ヨリ一尺五寸九分口ヨリ一寸八分
入テ

左ノ方竹釘下ヨリ一尺八分口ヨリ五寸三分入テ

障子組子堅二本横四本引糸ハ真中ニ白張ナリ

但シニ枚障子ナラン

○勝年口障子太鼓張リ組子堅二本横十三本
引糸内ノ方ハ六ツ目勝年ノ方ニテ七ツ目ニ付ル

